

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年6月28日

【事業年度】 第151期（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

【会社名】 株式会社宇徳

【英訳名】 Utoc Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 田邊 昌宏

【本店の所在の場所】 横浜市中区弁天通6丁目85番地

【電話番号】 045(201)6300

【事務連絡者氏名】 常務取締役 小川 宏

【最寄りの連絡場所】 東京都港区港南2丁目16番4号（東京支社）

【電話番号】 03(5769)3797

【事務連絡者氏名】 経理財務部長 古山 貴一

【縦覧に供する場所】 株式会社宇徳 東京支社
(東京都港区港南2丁目16番4号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第147期	第148期	第149期	第150期	第151期
決算年月	平成26年 3月	平成27年 3月	平成28年 3月	平成29年 3月	平成30年 3月
営業収入 (千円)	43,581,691	53,335,502	47,455,571	51,041,259	55,870,741
経常利益 (千円)	3,044,011	5,562,581	3,109,393	3,057,584	3,426,810
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	2,383,565	3,434,982	1,948,699	2,276,210	2,366,177
包括利益 (千円)	3,004,123	4,024,817	1,433,001	2,227,778	2,567,816
純資産額 (千円)	21,508,208	25,203,026	26,203,540	28,040,201	30,218,924
総資産額 (千円)	32,214,541	37,960,491	36,359,276	38,950,907	41,479,791
1株当たり純資産額 (円)	495.91	581.14	604.42	646.93	697.22
1株当たり当期純利益 (円)	55.11	79.43	45.06	52.63	54.71
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	66.6	66.2	71.9	71.8	72.7
自己資本利益率 (%)	11.9	14.7	7.6	8.4	8.1
株価収益率 (倍)	6.51	7.42	7.39	7.94	8.48
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	4,739,340	2,905,297	4,921,342	3,474,618	4,287,060
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	3,565,722	3,378,032	3,922,112	2,947,093	3,589,808
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	722,372	645,542	699,740	413,639	598,472
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	3,499,919	2,586,664	2,817,751	2,839,182	3,077,988
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	1,258 (145)	1,602 (121)	1,209 (125)	1,855 (135)	2,278 (191)

(注) 1. 営業収入には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第148期の従業員数が前連結会計年度に比べ344名増加した主な理由は、子会社であるUTOO (THAILAND) CO., LTD. が新規工事受注により現場の増強をしたことによります。

4. 第149期の従業員数が前連結会計年度に比べ393名減少した主な理由は、子会社であるUTOO (THAILAND) CO., LTD. が大型工事完了に伴う人員整理を行ったことによります。

5. 第150期の従業員数が前連結会計年度に比べ646名増加した主な理由は、子会社であるUTOO PLANT CONSTRUCTION SDN.BHD. が大型工事対応のため現場の増強をしたことによります。

6. 第151期の従業員数が前連結会計年度に比べ423名増加した主な理由は、子会社であるUTOO PLANT CONSTRUCTION SDN.BHD. が大型工事対応のため現場の増強をしたことによります。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第147期	第148期	第149期	第150期	第151期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
営業収入 (千円)	32,091,028	38,309,577	34,783,889	37,151,934	39,368,906
経常利益 (千円)	2,268,979	4,644,409	2,611,503	2,046,985	2,355,865
当期純利益 (千円)	1,491,256	2,845,940	1,777,128	1,495,908	1,641,527
資本金 (千円)	2,155,300	2,155,300	2,155,300	2,155,300	2,155,300
発行済株式総数 (千株)	43,448	43,448	43,448	43,448	43,448
純資産額 (千円)	15,377,113	18,170,001	19,321,491	20,575,961	21,957,640
総資産額 (千円)	24,365,356	29,148,306	28,531,885	30,906,521	32,794,626
1株当たり純資産額 (円)	355.56	420.14	446.77	475.77	507.72
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	7.00 (0.00)	10.00 (0.00)	9.00 (0.00)	9.00 (0.00)	10.00 (0.00)
1株当たり当期純利益 (円)	34.48	65.81	41.09	34.59	37.96
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	63.1	62.3	67.7	66.6	67.0
自己資本利益率 (%)	10.1	17.0	9.5	7.5	7.7
株価収益率 (倍)	10.41	8.95	8.10	12.1	12.2
配当性向 (%)	20.3	15.2	21.9	26.0	26.3
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	329 (49)	341 (45)	333 (40)	388 (42)	387 (56)

(注) 1. 営業収入には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第150期の従業員数が前事業年度に比べ55名増加した主な理由は、平成28年10月1日付にて株式会社ジャパ
ンエクスプレスの事業の一部を譲り受けたことによります。

2 【沿革】

明治23年3月	宇都宮徳蔵個人経営の宇都宮徳蔵回漕店として横浜に創業
大正4年12月	株式会社に改組、株式会社宇都宮徳蔵回漕店と称する
昭和24年1月	商号を宇徳運輸株式会社と改める
昭和25年1月	倉庫営業の許可を取得
昭和26年8月	港湾運送事業法制定により京浜港における第1号の登録許可を取得
昭和30年12月	一般区域貨物自動車運送事業の免許取得
昭和37年8月	建設業大臣登録免許取得
昭和37年9月	東京証券取引所の市場第二部に株式上場
昭和38年7月	宇徳企業株式会社設立
昭和39年6月	千葉支店を開設
昭和40年4月	宇徳陸運株式会社（現宇徳ロジスティクス株式会社）設立
昭和46年3月	本社ビル完成 本社所在地を横浜市中区弁天通6丁目85番地に移す
昭和52年10月	福島総合事務所を開設
昭和55年9月	東京証券取引所の市場第一部に株式上場
昭和61年4月	米国にUTOKU EXPRESS (U.S.A), INC. (UTOX (U.S.A), INC.に商号変更) 設立
昭和62年10月	新潟総合事務所を開設
昭和63年4月	タイ国にUTOKU (THAILAND) CO., LTD. (現UTOX (THAILAND) CO., LTD.) 設立
平成元年1月	シンガポール国にUTOKU ENGINEERING PTE LTD. (現UTOX ENGINEERING PTE.LTD.) 設立
平成2年10月	大黒埠頭物流センター完成
平成3年5月	東扇島冷蔵倉庫完成
平成6年6月	英文商号を「Utoku Express Co., Ltd.」から「Utox Corporation」に変更
平成6年7月	青海物流センター完成
平成7年8月	九州宇徳株式会社設立 中国に合併事業として鉄宇国際運輸（天津）有限公司設立
平成7年9月	大井物流センター完成
平成12年12月	宇徳港運株式会社設立
平成13年6月	プラント事業部門、ISO9001の認証取得
平成14年4月	関西営業所、大阪税関通関業許可取得
平成14年7月	九州宇徳株式会社、門司税関通関業許可取得
平成15年3月	千葉支店を分社し、千葉宇徳株式会社を設立
平成15年5月	千葉宇徳株式会社と宇徳企業株式会社が合併し、千葉宇徳株式会社（現宇徳トランスネット株式会社）となる
平成17年4月	株式会社日野運輸（現宇徳流通サービス株式会社）を買収
平成18年4月	株式会社宇徳ビジネスサポート設立
平成19年2月	宇徳プラントサービス株式会社設立
平成19年8月	商号を株式会社宇徳と改める
平成20年4月	米国にUTOX AMERICA, INC. 設立
平成20年6月	UTOX (U.S.A), INC.の事業をUTOX AMERICA, INC.へ譲渡
平成23年4月	国際コンテナターミナル株式会社と合併
平成25年8月	シンガポール国にASIA UTOX PTE.LTD. 設立
平成27年2月	マレーシア国にUTOX PLANT CONSTRUCTION SDN.BHD. 設立
平成28年9月	中国に宇徳物流（天津）有限公司設立
平成28年10月	株式会社ジャパンエクスプレスより物流事業を譲り受ける

3 【事業の内容】

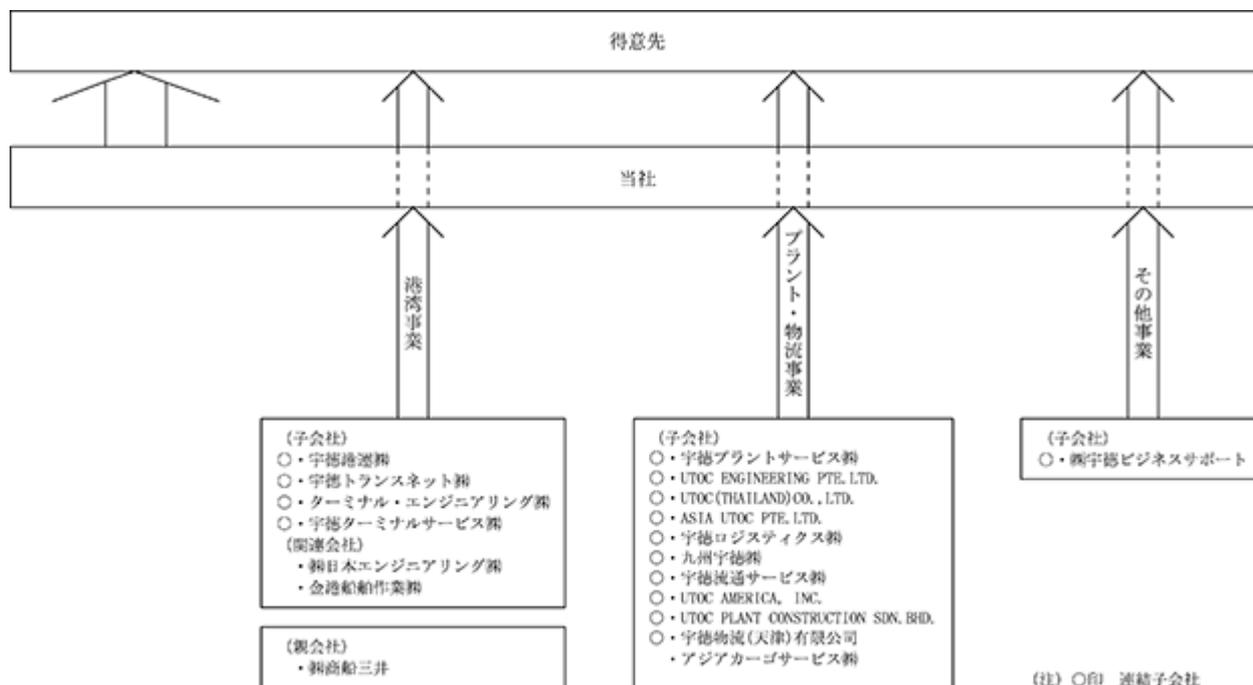
当社グループは、株式会社宇徳（以下「当社」という。）、親会社、子会社16社及び関連会社2社より構成されております。当社は、港湾事業、プラント・物流事業及びこれらに付帯する一切の業務を行い、貨物の海陸輸送に関するサービスを一貫的に提供可能な営業体制を整えております。当社グループ会社の事業も、当社の事業領域とその延長線上でグループの発展に繋がるよう下記の各事業を営んでおります。

なお、次の事業区分は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

事業区分	当社及び主な関係会社の事業における位置づけ
港湾事業	主として当社及び宇徳トランスネット㈱が行っており、宇徳港運㈱、ターミナル・エンジニアリング㈱、宇徳ターミナルサービス㈱、㈱日本エンジニアリング及び金港船舶作業㈱が当社の下請を行っております。
プラント・物流事業	主として当社、UTOC ENGINEERING PTE.LTD.、UTOC (THAILAND) CO.,LTD.、宇徳ロジスティクス㈱、九州宇徳㈱及び宇徳流通サービス㈱が行っており、宇徳プラントサービス㈱は、当社の下請を行っております。UTOC ENGINEERING PTE.LTD.、UTOC (THAILAND) CO.,LTD.及びUTOC PLANT CONSTRUCTION SDN.BHD.は独自の事業を行い、ASIA UTOC PTE.LTD.とともに各所在地における営業情報収集と当社へ情報の提供を行っております。宇徳ロジスティクス㈱（首都圏地区）は、当社の港湾事業に関連した輸出入貨物の陸上輸送の下請を行っております。九州宇徳㈱（九州地区）及び宇徳流通サービス㈱（首都圏地区）の各社は当社の国内輸送業務の下請を行っております。UTOC AMERICA, INC.は当社国際輸送等の下請を行っており、各所在地における営業情報収集と当社へ情報の提供を行っております。宇徳物流（天津）有限公司は、中華人民共和国天津市を拠点に輸送業務等を行っております。また、アジアカーゴサービス㈱は、韓国船社の海運代理店業務を行っております。
その他	当社は、不動産の賃貸業の運営を行い、㈱宇徳ビジネスサポートは、当社所有ビルの管理業務及び当社の間接業務を受託しております。

親会社である㈱商船三井には、当社が各事業区分における役務提供を行っており、上表には含めておりません。

以上の当社グループについて、事業系統図によって図示すると次の通りであります。



持分法適用関連会社であった鉄宇国際運輸（天津）有限公司は、保有出資持分の売却に伴い、当連結会計年度において持分法適用の範囲から除外しております。

また、これにより持分法非適用関連会社であった天津鉄宇報関有限公司についても、当社の関連会社から除外しております。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合又は被所有割合(%)	関係内容				
					役員の兼任等		資金援助	営業上の取引	設備の賃貸
					当社役員(人)	当社職員(人)			
(親会社) 株式会社商船三井	東京都港区	千円 65,400,351	海運業	被所有 67.55 (0.66)	1		あり	同社業務の下請	同社の作業設備・土地賃借
(連結子会社) 宇徳ロジスティクス株式会社	神奈川県 横浜市中区	千円 50,000	プラント・ 物流事業	100	3	1	あり	当社業務の下請	当社の土地賃借
宇徳港運株式会社	神奈川県 横浜市中区	千円 50,000	港湾事業	100	3	1	あり	当社業務の下請	当社の事務室賃借
宇徳トランスネット株式会社	千葉県 千葉市中央区	千円 90,000	港湾事業	100	1	2	あり	当社業務の下請	当社の土地賃借
ターミナル・エンジニアリング株式会社	東京都 品川区	千円 20,000	港湾事業	100	1	2	あり	当社業務の下請	当社の事務室賃借
九州宇徳株式会社	福岡県 福岡市東区	千円 30,000	プラント・ 物流事業	100		2	あり	九州地区の当社業務の下請	なし
宇徳流通サービス株式会社	神奈川県 横浜市中区	千円 10,000	プラント・ 物流事業	100 (100)		1	あり	当社業務の下請	なし
株式会社宇徳ビジネスサポート	神奈川県 横浜市中区	千円 10,000	その他	100	2	2	あり	当社所有ビル の管理業務及び 間接業務の受託	当社の事務室賃借
宇徳プラントサービス株式会社	福島県 いわき市	千円 30,000	プラント・ 物流事業	100	1	3	あり	東北地区の 当社業務の下請	なし
宇徳ターミナルサービス株式会社	東京都 品川区	千円 20,000	港湾事業	100		2	あり	当社業務の下請	当社の事務室賃借
UTO ENGINEERING PTE.LTD.	シンガポール国 シンガポール市	千シンガ ポールドル 2,000	プラント・ 物流事業	100 (100)	1		なし	シンガポ ール国地区の 情報提供	なし
UTO (THAILAND) CO.,LTD.	タイ国 バンコク市	千バーツ 12,000	プラント・ 物流事業	100 (44) [51]	1	1	なし	タイ国地区 の情報提供	なし
UTO AMERICA, INC.	米国 カリフォルニア 州 ロスアンゼルス 市	千アメリカ ドル 300	プラント・ 物流事業	100	1	1	なし	当社業務の 下請及び米 国地区の情 報提供	なし
ASIA UTO PTE.LTD.	シンガポール国 シンガポール市	千シンガ ポールドル 899	プラント・ 物流事業	100	1		なし	シンガポ ール国地区の 情報提供	なし
UTO PLANT CONSTRUCTION SDN.BHD.	マレーシア国 ジョホール州	千マレーシア リンギット 750	プラント・ 物流事業	100 (100)		1	なし	マレーシ ア国地区の情 報提供	なし
宇徳物流 (天津)有限公司	中華人民共和 国 天津市	千人民元 5,000	プラント・ 物流事業	100	1	2	なし	当社業務の 下請及び中 華人民共和 国地区の情 報提供	なし

- (注) 1. 議決権の所有割合の[]内は、緊密な者又は同意している者の所有割合で内数となっております。
2. 議決権の所有割合の()内は、間接所有割合で内数であります。
3. UTOC (THAILAND) CO.,LTD. は、持分は100分の50以下であります、実質的に支配しているため子会社としたものであります。
4. 上記関係会社のうち有価証券報告書を提出している会社は、(株)商船三井であります。
5. 持分法適用関連会社であった鉄宇国際運輸(天津)有限公司は、保有出資持分の売却に伴い、当連結会計年度において持分法適用の範囲から除外しております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成30年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
港湾事業	480(63)
プラント・物流事業	1,697(114)
その他	43(14)
全社(共通)	58(0)
合計	2,278(191)

- (注) 1. 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含む。)は、年間の平均人員を()外数で記載しております。
2. 全社(共通)として、記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。
3. 前連結会計年度に比べ従業員数が423名増加した主な理由は、子会社であるUTOO PLANT CONSTRUCTION SDN.BHD.が大型工事対応のため現場の増強をしたことによります。

(2) 提出会社の状況

平成30年3月31日現在

従業員数(人)	平均年令	平均勤続年数	平均年間給与(円)
387(56)	42 才3ヶ月	14年2ヶ月	7,448,046

セグメントの名称	従業員数(人)
港湾事業	139(25)
プラント・物流事業	190(31)
全社(共通)	58(0)
合計	387(56)

- (注) 1. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含む。)は、年間の平均人員を()外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、税込給与で時間外手当及び賞与、その他の臨時給与を含んでおります。
3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

当社グループ内の組合は企業内組合で、一部が全日本港湾労働組合、JAM新潟等に参加しております。

なお、労使関係については、円満に推移しており、特記事項はありません。

平成30年3月31日現在の組合員数は206人であります。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

(1) 会社の経営の基本方針

宇徳グループ企業理念

顧客のニーズと時代の要請に沿った高品質なサービスの提供を通じ社会に貢献し、企業価値の向上を目指します。
社会規範と企業倫理に則った透明性の高い経営を行い、チャレンジ精神豊かな人間性を尊ぶ企業を目指します。
全ての事業領域での安全確保の徹底と環境保全に努めます。

当社グループは、上記の企業理念の下、中核事業である港湾事業、プラント・物流事業各々の専門性と強みを結集した高品質サービスの提供を通じて企業価値の向上を目指すとともに、透明性の高い経営と徹底した安全確保により顧客、株主および取引先等の関係者の皆様の信頼に応え、広く社会に貢献する企業を目指してまいります。

(2) 目標とする経営指標

当社は、2010年度からの10年間を「新たな成長機会への挑戦」の期間と位置づけ、質的・量的な発展と拡大を目標に「宇徳ビジョン2020」を長期の成長戦略として策定しております。10年後にあたる2019年度の目標として売上高1,000億円、経常利益50億円超を掲げております。

(3) 中長期的な会社の経営戦略

当社は商船三井グループの一員として、グループにおける当社の特徴と強みを生かしたサービスを提供することにより、商船三井グループ及び当社グループ双方の企業価値を高めるべく多面的に事業の展開を図っていくことを経営戦略の中核としています。

港湾事業においては、港湾を取り巻く環境変化に対し安定的に高品質なサービスを提供する体制を維持すると共に、サービス提供を通じて顧客との連携を一層深め新規営業分野の開拓と事業の拡大を図ってまいります。

プラント・物流事業においては、選択と集中による事業の再編を推進し収益性の向上を図ると共に、商船三井グループ各社との連携を更に深め多様なサービスメニューを開発して営業分野と顧客層の拡大を図ってまいります。特に、重量物輸送、プラント工事では、技術開発、機材の拡充と弛まぬコスト合理化追求により、電力及び化学プラント等の事業分野の競争力強化と営業領域の拡大を図ると共に、海外事業の収益を安定的なものとするため、更なる施工管理体制の充実と顧客との信頼関係の深耕により継続的受注を図ってまいります。

また、事業の発展のためには長期的な観点で人材を確保し育成することが不可欠であるとの認識の下、当社では技術の伝承に加え、新時代の技術に対応するための人材の育成に重点をおいた人事政策を展開する方針です。

内部統制システムについては、金融商品取引法の求める内部統制にとどまらず、広くコーポレートガバナンスの充実に全社をあげて鋭意取り組んでまいります。なお、安全作業及びサービス品質の管理についても経営の最重要事項として万全の体制を整備すべく取り組んでいるほか、社会貢献、環境対策、コンプライアンス等についても企業の使命として長期的視点に立ち、引続き取り組んでまいります。

なお、文中における将来に関する事項は当連結会計年度末（平成30年3月31日）現在において当社グループが判断したものであります。

2 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績及び財務状況に重要な影響を及ぼし投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性があるものとして、当社が認識している「事業等のリスク」には以下のようなものがあります。

なお、文中における将来に関する事項は当連結会計年度末（平成30年3月31日）現在において当社グループが判断したものであります。

経済情勢

当社グループの営む港湾事業は、輸出入貨物の変動に大きな影響を受け、また、プラント・物流事業は輸出入貨物の変動に加え、国内外における設備投資及び国内の公共事業等の動向に大きな影響を受けております。従いまして国内はもとより北米、欧州、アジア等における景気と貿易の動向は、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

特定業界・特定取引先への依存

当社グループの営業収入は主要顧客上位10社よりの収入が約3割から4割を占めております。従いまして現在の経営状況については安定的である反面、主要顧客の動向が当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

法規制等

当社グループは港湾事業においては港湾運送事業法等、プラント・物流事業においては貨物自動車運送事業法、通関業法及び建設業法等による各種の事業免許・許可を取得し事業を営んでおります。免許・許可基準等の変更等により規制緩和等が行われ競合他社の増加及び価格競争の激化が生じた場合には当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループは貨物自動車運送事業をはじめとして車両・機械装置を使用した役務提供を行っておりますが、環境保護関連法令における規制の強化等により新たな設備投資が必要となった場合には当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

事故及び災害

当社グループは港湾地区、電力会社等の事業所及び各種建設現場等において請負作業を行っております。当社グループは安全衛生管理及び品質管理に関する管理体制を整えており、安全を最優先して作業を行っておりますが万一事故・災害が発生した場合には経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社グループの経営基盤は、京浜港地区に集中しており当該地区において大規模災害が発生した場合には経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

金利の変動

当社グループは運転資金及び設備投資資金につきましては主として金融機関からの借入により調達しております。有利子負債の圧縮に努力しておりますが、運転資金については短期借入により調達しており、今後金利が上昇した場合には経営成績・財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(業績等の概要)

(1) 業績

当連結会計年度においては、緩やかな成長が続いた海外経済に後押しされ、わが国経済も、極めて緩和的な金融環境が継続される中、着実に改善し、景気拡大の裾野も、幅広い経済主体に広がりました。

このような環境のもと、当社グループの総力をあげて効率的な事業運営を推し進めた結果、セグメント別の業績は次のとおりとなりました。

上段：営業収入 下段：経常損益 (百万円)

セグメントの状況	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)		増減額	増減率
港湾事業	23,419		23,563		143	0.6%
	2,146		2,465		319	14.9%
プラント・物流事業	27,123		31,826		4,702	17.3%
	806		891		85	10.6%
その他	497		481		16	3.3%
	104		69		35	33.9%

港湾事業

前期との比較では、完成車・中古車などの車輛の取扱いが減少しましたが、建機の出荷が好調に推移した他、ターミナルにおけるアジア貨物を主としたコンテナの取扱いが増加したことから、事業全体では増収増益となりました。

プラント・物流事業

プラント工事では、国内の重量物輸送工事、橋梁・その他の工事が堅調に推移しました。また、マレーシア、シンガポールおよびタイで石油化学プラント設備の組立やメンテナンス工事を取り進めました。物流では、当連結会計年度において309百万円の貸倒引当金繰入額の計上を余儀なくされましたが、積極的な営業活動により、取扱い貨物量が大きく増加したこともあり、事業全体として、増収増益となりました。

その他

自社ビル等不動産の賃貸等があります。

以上の結果、当連結会計年度の営業収入は558億7千万円（前年同期比9.5%増）、営業利益は32億1千5百万円（同10.4%増）、経常利益は34億2千6百万円（同12.1%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は23億6千6百万円（同4.0%増）となりました。

(2) 財政状態

当連結会計年度末における総資産は414億7千9百万円となり、前年度末比25億2千8百万円の増加となりました。主な要因は、受取手形及び営業未収入金が2億5千9百万円、関係会社短期貸付金が26億2千9百万円増加したことによるものです。セグメントごとの資産については港湾事業で4億5千4百万円の増加、プラント・物流事業で23億8千5百万円の増加、その他事業で4百万円の減少、セグメントに配分していない全社資産が3億6百万円の減少となりました。

負債は112億6千万円となり、前年度末比3億5千万円の増加となりました。主な要因は、未払法人税等が2億6千7百万円、その他流動負債のうち未払金が1億2千9百万円増加したことによるものです。

純資産につきましては、前年度末比21億7千8百万円増加し、302億1千8百万円となりました。主な要因は、利益剰余金が19億7千7百万円増加したことによるものです。

(3) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は30億7千7百万円となり、前年度末に比べ2億3千8百万円増加いたしました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は42億8千7百万円（前年度は34億7千4百万円の収入）となりました。主なプラス要因は、税金等調整前当期純利益36億6千6百万円、減価償却費15億6千7百万円、のれん償却額9千5百万円及び貸倒引当金の増加4億2千4百万円であり、主なマイナス要因は、関係会社出資金売却益1億7千5百万円、営業債権の増加額4億3千8百万円及び法人税等の支払額10億9千1百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は35億8千9百万円（前年度は29億4千7百万円の支出）となりました。主なプラス要因は、貸付金の回収による収入108億8百万円及び関係会社出資金の売却による収入3億6千9百万円であり、主なマイナス要因は有形固定資産の取得による支出14億7千1百万円及び貸付けによる支出134億1千8百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は5億9千8百万円（前年度は4億1千3百万円の支出）となりました。主なマイナス要因は、配当金の支払額3億8千8百万円であります。

(資本の財源及び資金の流動性に係る情報)

当社グループの主要な資金需要は、営業活動に基づく営業支出、一般経費及び財務活動に基づく営業外支出並びに設備の新設、改修等に係る投資であります。

また今後、当社グループの新たな収益の源泉となり、企業価値向上に貢献していくとの判断から、新規事業及び海外事業につきましては、M&Aも含めた投資の検討を行ってまいります。

これらの資金需要につきましては、営業活動によるキャッシュ・フロー及び自己資金のほか、金融機関からの借入等による資金調達にて対応していくこととしております。

手許の運転資金につきましては、親会社、当社及び国内連結子会社においてキャッシュ・マネジメント・サービスを活用しており、各社における余剰資金の一元管理を行うことで、資金の効率化を図っております。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	平成28年3月期	平成29年3月期	平成30年3月期
自己資本比率(%)	71.9	71.8	72.7
時価ベースの自己資本比率(%)	39.6	46.4	48.4
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(年)	0.1	0.2	0.1
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	647.0	349.8	360.3

自己資本比率：自己資本 / 総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額 / 総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債 / キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー / 利払い

各指標は、いずれも連結ベースの財務諸表により計算しております。

株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数（自己株式控除後）により算出しております。

キャッシュ・フローは、連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。

有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を払っている全ての負債（リース債務を除く）を対象としております。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

(営業の状況)

当連結会計年度の営業実績は、次のとおりであります。

(1) 営業収入

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	前年同期比(%)
港湾事業(千円)	23,563,607	100.6
プラント・物流事業(千円)	31,826,029	117.3
その他(千円)	481,104	96.7
計(千円)	55,870,741	109.5

- (注) 1. 港湾事業の主なものは、港湾運送作業、ターミナル作業及び港湾関連作業であります。
2. プラント・物流事業の主なものは、一般貨物の輸送及び取扱業、貨物保管荷捌及び通関業、並びに大型機械・機器等の輸送据付、保繕作業及び構内作業であります。
3. その他の主なものは、不動産賃貸業であります。
4. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
5. セグメント間の取引については、相殺消去しております。

(2) セグメント毎の取扱量等

セグメント及び主要な事業・作業の名称等		当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	前年同期比 (%)
港湾事業	船内-沿岸一貫荷役作業(トン)	34,387,736	95.4
	はしけ運送・沿岸荷役他(トン)	2,614,309	100.7
プラント・物流事業	倉庫業	期首保管残高(トン)	289.4
		入庫高(トン)	159.0
		出庫高(トン)	176.1
		期末保管残高(トン)	109.6
		保管残高回転率(%)	118.3

- (注) 1. 保管残高回転率は次式により算出しております。

$$\text{保管残高回転率} = \frac{(\text{年間入庫トン数} + \text{年間出庫トン数}) \times 1/2 \times 1/12}{\text{月末平均保管残高}} \times 100$$

2. 陸上運送作業の取扱高については、運送形態に応じトン数建て・個数建て等によっているため、記載しておりません。
3. 大型機械・機器等の輸送据付、保繕作業及び構内作業、並びに不動産賃貸業については、上記取扱量等の算出が困難なため記載しておりません。

(3) 主要顧客別営業収入

相手先	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
株式会社商船三井	10,320,989	20.2	10,305,429	18.4

- (注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容)

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。
なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般的に公正妥当と認められている企業会計の基準に基づき作成されております。連結財務諸表の作成において、下記の会計方針が当社グループの重要な判断と見積りに大きな影響を及ぼすと考えております。

収益の認識

当社グループの営業収入は、原則、顧客に対してサービスが提供された時点で収益を認識しております。

貸倒引当金

当社グループは、顧客の支払不能時に発生する損失の見積り額について、貸倒引当金を計上しております。顧客の財務状態が悪化し、その支払能力が低下した場合、追加引当が必要となる可能性があります。

投資の減損

当社グループは、長期的な取引関係の維持のために、特定の顧客及び金融機関の株式を所有しております。これらの株式には価格変動性の高い上場会社の株式と株価の算定が困難である非上場会社の株式が含まれております。

上場会社への投資の場合、各四半期末及び3月末時点の時価への評価替を行っております。

非上場会社への投資の場合、将来の市況悪化又は投資先の業績不振により、現在の簿価に反映されていない損失又は簿価の回収不能と見込まれる金額が発生した場合には、評価損の計上が必要となる可能性があります。

固定資産の減損

当社グループは、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき減損の兆候を識別し、減損すべき資産グループがあれば随時、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を特別損失として計上しております。

経営環境の変化、土地の価格変動等により、固定資産の減損処理が必要となる可能性があります。

(2) 当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当連結会計年度における当社グループの経営成績及び業績の内容につきましては [業績等の概要] に記載のとおりであり、営業収入は前年同期比48億2千9百万円 (同9.5%) 増の558億7千万円となりました。

販売費及び一般管理費につきましては、人件費及び貸倒引当金繰入額が増加したこと等から前年同期比7億1百万円 (同8.8%) 増の86億6千1百万円、営業利益は前年同期比3億2百万円 (同10.4%) 増の32億1千5百万円となりました。

営業外損益につきましては、営業外収益として2億8千7百万円、営業外費用に7千5百万円を計上し、これらの結果、経常利益は前年同期比3億6千9百万円 (同12.1%) 増の34億2千6百万円となりました。

特別損益につきましては、特別利益として関係会社出資金売却益等2億7千6百万円を計上し、特別損失として固定資産除売却損等3千6百万円を計上いたしました。

以上に、法人税、住民税及び事業税、並びに法人税等調整額を加減した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、8千9百万円 (同4.0%) 増の23億6千6百万円となりました。

(3) 経営戦略の現状と見通し

地政学リスクの発現、保護主義を背景とした貿易・通商摩擦の高まりなど、政治経済上の不安定要素による短期的な調整場面を内包しつつも、世界経済は緩やかな成長を続けると期待されます。こうした海外経済の成長にも後押しされ、わが国経済も、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響を受ける恐れはあるものの、雇用・所得環境の改善が続き、所得から支出への前向きな循環メカニズムが働くことで、緩やかながらも着実に拡大を続けると見込まれます。

このような状況の下、当社グループを取り巻く事業環境は、港湾事業では邦船3社のコンテナ船事業統合会社が本年4月から営業を開始し、新たな局面を迎えますが、世界経済の緩やかな成長の下、コンテナ取扱量は概ね前期と変わらず、建機の取扱いは引き続き好調を保ち、完成車・中古車などの車輛の取扱いも前期並みを見込みます。

プラント・物流事業では特殊機材を活かした橋梁・一般工事の受注強化を図り、国内外の各種プラント工事の安全かつ確実な施工を取り進めます。また、輸出入貨物の取扱量増加の他、倉庫の採算向上に向けた積極的な営業展開を行ってまいります。

しかしながら、コストの上昇圧力は強く、来期業績は営業収入578億円、営業利益29億円、経常利益32億円、親会社株主に帰属する当期純利益21億円と前年同期比で増収減益を予想しております。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループでは、当連結会計年度におきまして18億7千7百万円の設備投資を実施しました。

港湾事業におきましては、コンテナ荷役用機器に7億6千6百万円、港湾管理システムに6千1百万円の設備投資を実施しました。プラント・物流事業におきましては、重量物運搬機器に1億8千1百万円、物流倉庫に5千4百万円の設備投資を実施しました。

なお、設備投資に係る資金調達は、自己資金により行っております。

2 【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

なお、連結会社間において賃貸借している設備については、設備を使用している会社の設備に含めて記載しております。

(1) 提出会社

a. 事業所別設備の状況

(平成30年3月31日現在)

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	建物及び構 築物	機械装置及 び運搬具	工具、器具 及び備品	土地		リース 資産	合計	従業 員数 (人)
			帳簿価額 (千円)	帳簿価額 (千円)	帳簿価額 (千円)	面積 (㎡)	帳簿価額 (千円)	帳簿価額 (千円)	帳簿価額 (千円)	
本社及び 管理不動産 (横浜市中区)	港湾事業 プラント・ 物流事業 その他事業	統括業務施設	957,746		7,767	994 (1,504)	127,060	6,854	1,099,429	33
横浜ターミナル (横浜市中区)	港湾事業	港湾施設 荷役設備	7,043	265,358	7,100	(13,746)		679	280,181	27
本牧物流センター (横浜市中区)	プラント・ 物流事業	物流倉庫 荷役設備	1,934	91		()		1,290	3,316	2
大黒ターミナル (横浜市鶴見区)	港湾事業	港湾施設 荷役設備	4,320	37,504	1,518	(14,876)		11,976	55,318	18
大黒第一 物流センター (横浜市鶴見区)	プラント・ 物流事業	物流倉庫 荷役設備	246,055	5,658	3,451	(15,719)		1,573	256,738	6
大黒第二 物流センター (横浜市鶴見区)	プラント・ 物流事業	物流倉庫 荷役設備	370,784	94	884	(8,229)		192	371,955	4
東扇島冷蔵倉庫 (川崎市川崎区)	プラント・ 物流事業	物流倉庫 荷役設備	229,224	26,481	1,264	10,000 (17,532)	1,567,785		1,824,756	
東京支社及び 管理不動産 (東京都港区他)	港湾事業 プラント・ 物流事業 その他事業	統括業務施設	334,529	0	18,128	(1,320)		11,646	364,304	108
東京ターミナル (東京都品川区他)	港湾事業 プラント・ 物流事業	港湾施設 荷役設備	6,137	643,031	57,941	(30,634)		2,800	709,911	100
大井第一 物流センター (東京都品川区)	プラント・ 物流事業	物流倉庫 荷役設備	31,450	9,581	8,988	()		7,565	57,584	9
大井第二 物流センター (東京都大田区)	プラント・ 物流事業	物流倉庫 荷役設備	124,390	5,734	2,250	(1,689)		5,198	137,573	4
有明ターミナル (東京都江東区)	港湾事業	港湾施設 荷役設備	253	364	568	(52,198)		4,119	5,306	9
青海物流センター (東京都江東区)	プラント・ 物流事業	物流倉庫 荷役設備	514,252	3,660	0	(6,489)			517,912	
お台場フルーツ センター (東京都江東区)	プラント・ 物流事業	物流倉庫 荷役設備	3,394	0	0	(10,388)			3,394	
町田物流センター (東京都町田市)	プラント・ 物流事業	物流倉庫 荷役設備	1,694		4,795	()		20,341	26,831	3
千葉機材センター (千葉県市原市)	プラント・ 物流事業	機材倉庫	426,238	527,128	62,122	11,456 ()	237,146	2,386	1,255,023	1
さいたま土地 (さいたま市北区)	その他事業	土地				5,351 ()	252,708		252,708	

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	建物及び構 築物	機械装置及 び運搬具	工具、器具 及び備品	土地		リース 資産	合計	従業 員数 (人)
			帳簿価額 (千円)	帳簿価額 (千円)	帳簿価額 (千円)	面積 (㎡)	帳簿価額 (千円)	帳簿価額 (千円)	帳簿価額 (千円)	
福島事業所 (福島県双葉郡他)	プラント・ 物流事業	物流事業施設 プラント設備	3,398	19,745	29,512	7,595 (435)	116,031	18,583	187,271	38
柏崎・刈羽事業所 (新潟県柏崎市)	プラント・ 物流事業	物流事業施設 プラント設備	51,998	72,886	20,521	(7,552)		1,342	146,748	15

- (注) 1. 事業所名については事業の地域別にまとめた上で代表的な事業所名を記載しております。
2. 連結会社以外から賃借している土地の面積については、()で外書きしております。
3. 主な賃貸先の内訳は次のとおりであります。

物件	所在地	建物及び 構築物	土地		賃貸先
		帳簿価額 (千円)	面積 (㎡)	帳簿価額 (千円)	
本社ビル	横浜市中区弁天通 6 - 85	437,789			(株)MOLJAPAN他
万国橋SOKO	横浜市中区海岸通 1	193,401			(株)山本理頭設計工場他
ジャパンエクスプレビル	横浜市中区海岸通 1 - 1	84,425			(株)eimeku他
東扇島冷蔵倉庫	川崎市川崎区東扇島30 - 3	229,224	10,000	1,567,785	東洋水産(株)
芝浦シーバンスビル	東京都港区芝浦 1 - 2 - 3	305,918			清水総合開発(株)
青海物流センター	東京都江東区青海 4 - 5 - 15	514,252			三井倉庫(株)
お台場フルーツセンター	東京都江東区青海 4 - 7 - 12	3,394			(株)ファーマインド
さいたま土地	さいたま市北区吉野町 2 - 244 - 4		5,351	252,708	(株)ジャパンビバレッジ ホールディングス

4. リース契約による主な賃借設備は次のとおりであります。

区分	種類	数量	リース期間 (年)	年間支払リース 料(千円)	未経過リース料 (千円)
車両運搬具	重量物輸送車両	4ユニット	6	61,641	

- (注) オペレーティング・リース契約物件を記載しております。

b. 主要設備の内容

(イ) 機械設備等

区分	保有台(基・隻)数
車両運搬具	182台
機械及び装置	116基
船舶	1隻
計	299台(基・隻)

- (注) 1. 車両運搬具はトラック、トレーラー、トラクター、スーパーキャリア、営業車両及び普通乗用車・貨物車等の自家用車両であります。
2. 機械及び装置はクレーン、ストラドルキャリア、フォークリフト及び荷役用エレベーター等の主に荷役機械であります。
3. 保有台(基・隻)数にはリース物件は含まれておりません。

(口) 倉庫施設

名称	住所	構造	棟数	敷地 (㎡)	建物面積 (延㎡)	収容能力 (トン)
本牧物流センター	横浜市中区本牧ふ頭 5	鉄筋コンクリート造 三階建	1		9,994	15,760
大黒第一物流センター	横浜市鶴見区大黒埠頭 8	鉄筋コンクリート造 五階建	1		17,202	19,400
大黒第二物流センター	横浜市鶴見区大黒埠頭18	鉄筋コンクリート造 四階建	1		12,157	16,347
東扇島冷蔵倉庫	川崎市川崎区東扇島30 3	鉄筋コンクリート造 五階建	1	10,000	30,600	36,870
大井第一物流センター	東京都品川区八潮 2 9	鉄筋コンクリート造 五階建	1		37,970	38,025
大井第二物流センター	東京都大田区東海 5 12	鉄筋コンクリート造 六階建	1		6,679 (2,160)	7,450
青海物流センター	東京都江東区青海 4 5 15	鉄筋コンクリート造 五階建	1		18,240	19,490
お台場フルーツセンター	東京都江東区青海 4 7 12	鉄筋コンクリート造 二階建	1		9,280	4,216
町田物流センター	東京都町田市鶴間 7 30 1	鉄骨鉄筋コンクリート造 四階建	1		5,585	16,800

(注) () は借用中のものです

(2) 国内子会社

a. 会社別設備の状況

(平成30年3月31日現在)

会社名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	工具、器具 及び備品	土地		リース 資産	合計	従業員数 (人)
				帳簿価額 (千円)	帳簿価額 (千円)	帳簿価額 (千円)	面積 (㎡)	帳簿価額 (千円)	帳簿価額 (千円)	帳簿価額 (千円)	
宇徳ロジスティクス(株)	横浜市中区	プラント・ 物流事業	物流事業施設 車両整備施設	209,422	111,694	1,271	6,777 (20,668)	33,191	79,534	435,112	81
宇徳港運(株)	横浜市中区	港湾事業	荷役設備	1,475	6,685	3,778	(1,306)		977	12,916	164
宇徳トランスネット(株)	千葉県千葉 市中央区	港湾事業	港湾施設 荷役設備	61,704	139,589	1,537	5,453 (330)	167,999	20,224	391,056	121
九州宇徳(株)	福岡県福岡 市東区	プラント・ 物流事業	物流事業施設 荷役設備	95,554	28,372	615	(6,392)		6,390	130,932	18
宇徳流通サービス(株)	横浜市中区	プラント・ 物流事業	物流事業施設	0	13,123				90,336	103,460	94
(株)宇徳ビジネスサポート	横浜市中区	その他事業	事務用備品	936	274	768				1,980	43
宇徳プラントサービス(株)	福島県いわ き市	プラント・ 物流事業	業務用連絡車	1,404		358			1,023	2,786	48
ターミナル・エンジニアリング(株)	東京都品川 区	港湾事業	荷役設備	416	3,777	4,650				8,844	38
宇徳ターミナルサービス(株)	東京都品川 区	港湾事業	業務用連絡車		3,873	193				4,067	18

(注) 1. 土地及び建物の一部を賃借しております。賃借している土地の面積については、() で外書きしていません。

2. リース契約による主な賃借設備はありません。

b. 主要設備の内容

(イ) 機械設備等

区分	保有台(基)数
車両運搬具	411台
機械及び装置	14基
計	425台(基)

- (注) 1. 車両及び運搬具はトラック、トレーラー、トラクターの営業車両及びマイクロバス、普通乗用車・貨物車等の自家用車両であります。
2. 機械及び装置はクレーン、ホイストクレーン、フォークリフト等の主に荷役機械であります。
3. 保有台(基)数にはリース物件は含まれておりません。

(ロ) 倉庫施設

会社名	名称	住所	構造	棟数	敷地 (㎡)	建物面積 (延㎡)	収容能力 (トン)
九州宇徳(株)	新宮物流センター	福岡県糟屋郡新宮町大字立花口426 6	鉄骨造平屋建	1	(5,925)	4,130	3,645
宇徳トランスネット(株)	千葉物流センター	千葉県千葉市中央区中央港2 5	鉄骨造平屋建	2	5,453	3,875	4,376

(注) ()は連結会社以外から借用中のものであります。

(3) 在外子会社

a. 会社別設備の状況

(平成30年3月31日現在)

会社名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	工具器具 及び備品	土地		リース 資産	合計	従業員数 (人)
				帳簿価額 (千円)	帳簿価額 (千円)	帳簿価額 (千円)	面積 (㎡)	帳簿価額 (千円)	帳簿価額 (千円)	帳簿価額 (千円)	
UTO ENGINEERING PTE.LTD.	シンガポール国 シンガポール市	プラント・ 物流事業	プラント設 備	308,743	60,061	41,526	(12,133)			410,332	219
UTO (THAILAND) CO.,LTD.	タイ国 バンコク市	プラント・ 物流事業	プラント設 備	109,797	39,339	4,767	9,540	98,264	3,475	255,645	168
UTO PLANT CONSTRUCTION SDN.BHD.	マレーシア国 ジョホール州	プラント・ 物流事業	プラント設 備	7,812	20,494	33,190				61,497	859

(注) 連結会社以外から賃借している土地の面積については、()で外書きしております。

b. 主要設備の内容

(イ) 機械設備等

区分	保有台(基)数
車両及び運搬具	44台
機械及び装置	2基
計	46台(基)

- (注) 1. 車両及び運搬具は普通乗用車及び貨物車等であります。
2. 機械及び装置はクレーン、フォークリフト等の主に荷役設備であります。
3. 保有台(基)数にはリース物件は含まれておりません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、グループ内各社の設備投資計画を基に、景気予測、業界動向、投資効率等を勘案し、策定しております。

なお、当連結会計年度末現在における重要な設備の新設、改修計画は次のとおりであります。

(1) 重要な設備の新設

会社名 事業所名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定年月		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
当社東扇島 冷蔵庫	川崎市川崎区	プラント・ 物流事業	倉庫設備	707		自己資金	平成30.4	平成31.3	(注)
当社千葉機 材センター	千葉県市原市	プラント・ 物流事業	重量物運搬 機器	904	261	自己資金	平成29.12	平成30.7	(注)

(注) 完成後の増加能力については、現時点で算出することが困難であるため、記載は行っていません。

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	96,000,000
計	96,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成30年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年6月28日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	43,448,099	43,448,099	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	43,448,099	43,448,099		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成23年4月1日	14,342,099	43,448,099	700,000	2,155,300		330,659

(注) 平成23年4月1日付国際コンテナターミナル(株)との合併により、新株14,342,099株を発行し、資本金700,000千円増加いたしました。(合併比率 当社1:国際コンテナターミナル(株)1.04)

(5) 【所有者別状況】

平成30年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		26	25	29	76	5	2,773	2,934	
所有株式数 (単元)		37,259	2,087	294,832	48,110	76	52,008	434,372	10,899
所有株式数の 割合(%)		8.58	0.48	67.88	11.08	0.02	11.96	100	

(注) 自己株式200,715株は、「個人その他」に2,007単元、及び「単元未満株式の状況」に15株を含めて記載しております。

(6)【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社商船三井	東京都港区虎ノ門2丁目1番1号	28,919	66.87
BBH FOR FIDELITY PURITAN TR: FIDELITY SR INTRINSIC OPPORTUNITIES FUND (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A. (常任代理人住所 東京都千代田区丸の内2丁目7番1号)	1,600	3.70
KBLEPBS.A. 107704 (常任代理人 株式会社みずほ銀行)	43 BOULEVARD ROYAL L-2955 LUXEMBOURG (常任代理人住所 東京都港区港南2丁目15番1号)	994	2.30
三井住友信託銀行株式会社 (常任代理人 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 (常任代理人住所 東京都中央区晴海1丁目8番11号)	574	1.33
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	495	1.14
STATE STREET BANK AND TRUST CLIENT OMNIBUS ACCOUNT 02 505002 (常任代理人 株式会社みずほ銀行)	100 KING STREET WEST, SUITE 3500, PO BOX 23 TORONTO, ONTARIO M5X 1A9 CANADA (常任代理人住所 東京都港区港南2丁目15番1号)	460	1.06
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	411	0.95
山内正義	千葉県浦安市	342	0.79
GOVERNMENT OF NORWAY (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	BANKPLASSEN 2, 0107 OSLO 1 OSLO 0107 NO (常任代理人住所 東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	336	0.78
三井住友海上火災保険株式会社	東京都千代田区神田駿河台3丁目9番地	332	0.77
計	-	34,465	79.69

- (注) 1. (株)三菱東京UFJ銀行は、平成30年4月1日付で(株)三菱UFJ銀行に商号変更しております。
2. 上記日本マスタートラスト信託銀行(株)の所有株式数のうち信託業務に係る株式数は440千株であります。なお、それらの内訳は、年金信託設定分22千株、投資信託設定分418千株となっております。
3. 上記日本トラスティ・サービス信託銀行(株)の所有株式数のうち信託業務に係る株式数は216千株であります。なお、それらの内訳は、年金信託設定分22千株、投資信託設定分194千株となっております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 200,700		
完全議決権株式(その他)	普通株式 43,236,500	432,365	
単元未満株式	普通株式 10,899		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	43,448,099		
総株主の議決権		432,365	

【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割(%)
株式会社宇徳	横浜市中区弁天通 6丁目85番	200,700		200,700	0.46
計		200,700		200,700	0.46

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	76	38,198
当期間における取得自己株式		

(注) 当期間における取得自己株式には、平成30年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の
買取による株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他				
保有自己株式数	200,715		200,715	

(注) 当期間における保有自己株式には、平成30年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取及び売渡による株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、配当を通じた安定的かつ継続的な株主に対する利益の還元と中長期的な観点より経営基盤の強化のために内部留保と経営資源の充実に努めて、事業の成長を通じて企業価値の極大化を目指すことを重要な経営課題と認識しております。利益配分に当たっては、これらを総合的に勘案しバランスよく配分することを基本方針としております。

当社の剰余金の配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当ができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
平成30年6月28日 定時株主総会決議	432	10

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第147期	第148期	第149期	第150期	第151期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
最高(円)	444	690	615	449	567
最低(円)	290	332	295	276	395

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所(市場第一部)におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年10月	平成29年11月	平成29年12月	平成30年1月	平成30年2月	平成30年3月
最高(円)	535	517	554	567	537	504
最低(円)	492	479	491	492	453	447

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所(市場第一部)におけるものであります。

5 【役員の状況】

男性18名 女性 - 名 (役員のうち女性の比率 - %)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長		田邊 昌宏	昭和32年 3月11日生	昭和54年 4月 大阪商船三井船舶㈱入社 平成11年 4月 ナビックスライン㈱と合併し ㈱商船三井となる 平成15年 6月 同社ロジスティクス事業部長 平成20年 6月 同社執行役員 MOL(EUROPE)B.V. Managing Director 平成23年 6月 同社常務執行役員 平成25年 6月 同社取締役 常務執行役員 平成27年 6月 同社取締役 専務執行役員 平成29年 4月 同社代表取締役 副社長執行役員 平成30年 4月 同社取締役 当社顧問 平成30年 6月 当社代表取締役社長(現任)	(注) 3	
代表取締役 副社長		奥野 淳	昭和29年10月24日生	昭和52年 4月 三井物産㈱入社 平成15年10月 同社電機・プラントプロジェクト 本部電力機械部長 平成16年 4月 三井物産パワーシステム㈱出向 代表取締役社長 平成17年 4月 三井物産㈱ジャカルタ事務所長 平成19年 4月 同社アジア・大洋州本部プロジェ クト商品本部長(兼)アジア・大洋 州三井物産㈱SVP 平成21年 4月 三井物産プラントシステム㈱出 向 代表取締役社長 平成26年 4月 同社相談役 平成26年 6月 当社常務取締役 平成27年 6月 当社専務取締役 平成29年 6月 当社代表取締役専務 平成30年 6月 当社代表取締役副社長(現任)	(注) 3	14,800
常務取締役		北見 毅彦	昭和31年 3月 7日生	昭和53年 4月 国際コンテナターミナル㈱入社 平成21年 6月 同社オペレーション部長 平成23年 4月 当社東京ターミナル部長 平成24年 6月 当社取締役 平成28年 6月 当社常務取締役(現任)	(注) 3	3,400
常務取締役		小川 宏	昭和33年11月 7日生	昭和57年 4月 大阪商船三井船舶㈱入社 平成11年 4月 ナビックスライン㈱と合併し ㈱商船三井となる 平成15年 6月 同社定航部港湾・ターミナルグ ループリーダー 平成18年 6月 同社経営企画部部長代理 中国・成長地域戦略担当 平成19年 6月 同社グループ事業部関連事業第一 グループリーダー 平成20年 6月 MOL(China)Co.,Ltd.出向 平成24年 6月 当社取締役 平成28年 6月 当社常務取締役(現任)	(注) 3	6,200

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
常務取締役		廉岡 卓	昭和33年7月2日生	昭和57年4月 平成8年6月 平成11年4月 平成12年6月 平成15年6月 平成20年6月 平成24年6月 平成27年6月 平成29年6月	大阪商船三井船舶(株)入社 Mitsui O.S.K. Lines (America) Inc.出向 ナビックスライン(株)と合併し (株)商船三井となる (株)エム・オー・エル・ジャパン出 向 MOL(Asia)Ltd.出向 (株)MOL JAPAN出向 MOL(BRASIL)Ltda.出向 当社取締役 当社常務取締役(現任)	(注) 3	6,500
取締役		小嶋 茂	昭和35年10月4日生	昭和56年11月 平成20年7月 平成22年4月 平成23年4月 平成28年6月 平成29年5月	当社入社 当社港湾営業企画部長 当社横浜港支店部長 当社港運部長 当社取締役(現任) 宇徳港運(株)代表取締役社長(現 任)	(注) 3	5,934
取締役	技術部長	佐々木 敏幸	昭和35年8月14日生	昭和58年4月 平成23年11月 平成28年6月	当社入社 当社技術部長(現任) 当社取締役(現任)	(注) 3	1,537
取締役		鍋田 康久	昭和36年8月19日生	昭和59年4月 平成21年7月 平成23年4月 平成26年10月 平成28年10月 平成29年6月	国際コンテナターミナル(株)入社 同社総務部部長補佐 当社総合企画部決算税務チーム リーダー 当社経理財務室長 当社経理財務部長 当社取締役(現任)	(注) 3	1,000
取締役	プラント営業部 長	片野 英明	昭和37年10月28日生	昭和60年4月 平成27年1月 平成29年4月 平成30年6月	当社入社 当社工事第二部長 当社プラント営業部長(現任) 当社取締役(現任)	(注) 3	6,100
取締役	プラント・物流 企画管理室長	赤羽 正光	昭和37年1月19日生	昭和59年4月 平成27年8月 平成29年4月 平成30年6月	当社入社 当社プラント営業部長 当社工事第二部長 当社取締役(現任)	(注) 3	4,200
取締役	総合企画部長	小川 真司	昭和36年11月18日生	昭和59年4月 平成11年4月 平成18年6月 平成20年6月 平成22年5月 平成25年6月 平成26年10月 平成27年6月 平成28年12月 平成29年4月 平成30年6月	大阪商船三井船舶(株)入社 ナビックスライン(株)と合併し (株)商船三井となる 同社財務部財務企画・資金管理グ ループリーダー(兼)IR室室長代 理 同社財務部資金管理グループリー ダー エム・オー・エル・アカウンティ ング(株)出向 (株)商船三井内部監査室室長代理 同社内部監査室室長代理(兼)内部 監査室内部統制管理グループリー ダー 同社内部監査室室長代理 同社嘱託 内部監査室室長代理 当社出向 総合企画部長(現任) 当社取締役(現任)	(注) 3	

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役		渡会 一郎	昭和25年8月6日生	昭和49年4月 平成16年4月 平成17年4月 平成20年4月 平成23年4月 平成28年6月	三菱地所㈱入社 同社執行役員有楽町営業管理部長 同社執行役員横浜支店長 同社執行役員名古屋支店長 三菱地所コミュニティ㈱代表取締役社長 当社取締役(現任)	(注) 3	
取締役		桜田 治	昭和40年9月14日生	平成元年4月 平成11年4月 平成19年12月 平成23年6月 平成26年5月 平成27年6月 平成28年4月 平成28年6月	大阪商船三井船舶㈱入社 ナビックスライン㈱と合併し ㈱商船三井となる MOL(EUROPE)B.V.出向 MOL LINER, LIMITED出向 ㈱商船三井定航部部长代理 (兼)定航部業務・経理グループリーダー 同社港湾・ロジスティクス事業部 港湾ターミナルグループリーダー (兼)定航部部长代理 同社港湾・ロジスティクス事業部長(現任) 当社取締役(現任)	(注) 3	
取締役		中井 元	昭和28年3月9日生	昭和51年4月 平成11年6月 平成14年4月 平成15年4月 平成16年4月 平成16年6月 平成17年4月 平成19年4月 平成19年6月 平成21年6月 平成24年6月 平成28年6月 平成29年3月 平成29年4月 平成29年6月	㈱日本興業銀行入行 同行ニューヨーク営業第一部部长(兼)IBJトラストカンパニー(興銀信託)社長 ㈱みずほコーポレート銀行米州非日系営業第三部部长 (兼)IBJトラストカンパニー社長 同行本店営業第五部部长 同行執行役員 本店営業第五部部长 同行執行役員 営業第六部部长 みずほ証券㈱常務執行役員 経営企画グループ長 セントラル硝子㈱顧問 同社常務執行役員 同社取締役 常務執行役員 同社代表取締役 専務執行役員 同社特別顧問 静岡ガス㈱社外監査役(現任) (公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 チーフ・セレモニー・オフィサー(現任) 当社取締役(現任)	(注) 3	
常勤監査役		飯田 知己	昭和35年10月24日生	昭和59年4月 平成25年4月 平成27年5月 平成29年4月 平成29年6月	当社入社 当社通関部長 当社人事総務部長 当社顧問 当社常勤監査役(現任)	(注) 4	400
常勤監査役		津田 昌明	昭和34年1月23日生	昭和56年4月 平成11年4月 平成18年6月 平成22年6月 平成23年6月 平成27年6月 平成28年5月 平成30年6月	大阪商船三井船舶㈱入社 ナビックスライン㈱と合併し ㈱商船三井となる 同社総務部長 同社総務部長(兼)総務部経営法務グループリーダー 同社常勤監査役 同社顧問 (公財)日本海事広報協会出向 当社常勤監査役(現任)	(注) 5	

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
監査役		沖 恒弘	昭和27年11月11日生	昭和52年11月 昭和56年9月 平成4年7月 平成13年5月 平成22年7月 平成27年6月 平成27年7月 平成28年6月 平成28年6月	監査法人朝日会計社（現有限責任あずさ監査法人）入所 公認会計士登録 監査法人朝日新和会計社（現有限責任あずさ監査法人）社員 朝日監査法人（現有限責任あずさ監査法人）代表社員 有限責任あずさ監査法人パートナー 同監査法人パートナー退任 沖公認会計士・税理士事務所（現任） 岩崎通信機㈱社外取締役（現任） 当社監査役（現任）	(注) 6	
監査役		中島 孝	昭和34年3月13日生	昭和57年4月 平成11年4月 平成18年6月 平成21年6月 平成23年6月 平成27年6月 平成29年6月	大阪商船三井船舶㈱入社 ナビックスライン㈱と合併し ㈱商船三井となる 同社経営企画部部長代理 同社営業調査室長 同社総務部長 同社常勤監査役（現任） 当社監査役（現任）	(注) 7	
計							50,071

- (注) 1. 取締役 渡会一郎及び中井元の2名は、「社外取締役」であります。
2. 常勤監査役 津田昌明及び監査役 沖恒弘の2名は、「社外監査役」であります。
3. 平成30年6月28日開催の定時株主総会終結のときから1年以内に終了する事業年度に関する定時株主総会の終結のときまで。
4. 平成30年6月28日開催の定時株主総会終結のときから4年以内に終了する事業年度に関する定時株主総会の終結のときまで。
5. 平成27年6月26日開催の定時株主総会終結のときから4年以内に終了する事業年度に関する定時株主総会の終結のときまで。
6. 平成28年6月24日開催の定時株主総会終結のときから4年以内に終了する事業年度に関する定時株主総会の終結のときまで。
7. 平成29年6月28日開催の定時株主総会終結のときから4年以内に終了する事業年度に関する定時株主総会の終結のときまで。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

(コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方)

当社は、株主をはじめとする顧客・従業員並びにその他の取引先等のステークホルダーに対して、適時適切な情報公開を通じて経営の透明性を確保いたします。そのうえで経営の効率性の向上と社会規範の遵守及び高い企業倫理の確立を目指したコンプライアンス体制の両立を図りつつ、事業の持続的発展と企業価値の向上を追求してゆくことを基本方針として、コーポレート・ガバナンス体制の充実に取り組んでおります。

(企業統治の体制の概要及び内部統制システムの整備の状況等)

企業統治の体制の概要

イ．取締役会は、14名（うち社外取締役2名）で構成されております。取締役会は毎月1回定期的に開催するほか必要に応じ随時開催され、株主総会に次ぐ会社の意思決定機関として、法令及び定款で定められた事項のほか経営に関する基本方針及び重要事項を審議し決定するとともに、重要な業務の執行状況について業務を執行する取締役より報告を受け、業務の執行を監督しております。

監査役会は4名（うち社外監査役2名）で構成されております。監査役は取締役会へ出席するほか取締役の業務執行及び当社グループの経営を、客観的かつ中立的立場から厳格に監視し当社グループの経営の透明性及び適法性を担保しております。

また、当社は、経営の意思決定と業務執行の迅速化を図るため、取締役会の下部機関として役付取締役で構成される常務会を設けております。常務会は原則として毎月2回、審議内容の充実に図るため必要に応じ役付以外の取締役並びに監査役にも出席させ開催することとしております。

ロ．当社は監査役制度を採用しており、監査役会の半数を社外監査役により構成し、監査役会による監視機能を高め経営の健全性を図るとともに、社外取締役の任用による取締役会の経営監督機能を強化し、適正な経営管理体制の実現に注力しております。

内部統制システムとリスク管理体制の整備の状況

当社は、社会規範と企業倫理に則った透明性の高い経営を目指し、当社及び当社グループの取締役及び従業員が遵守すべき行動基準として「宇徳グループ社員行動規範」を定め、その浸透・徹底を図っております。また、コンプライアンス体制の充実に図るため、コンプライアンス委員会を設置するとともに、法令違反等の未然防止のため内部通報制度を設けております。

当社は、内部監査につきましては、常務会直属の内部監査室を設置し、5名の人員を配置しております。監査は年度の計画に従い行っており、状況・結果につきましては代表取締役社長並びに監査役へ報告を行うとともに、監査役とは必要に応じ共同で監査を実施する等内部監査に関する情報を共有する体制となっております。監査役会は「監査役会規程」及び「監査役監査基準」を整備しており、監査役はこれら規程・基準に基づき監査を実施しております。

監査役及び内部監査室は会計監査人と必要に応じ情報を交換し会計監査の状況を把握するとともに、監査役会は会計監査人により会計監査の結果についての報告を受けその相当性について検証しております。

当社は、リスクに関しては常務会が統括して管理する体制であります。安全衛生・情報管理その他の特定のリスクについては各々規程を定め必要に応じて管理組織・委員会等を設置して危険・事故の未然防止のための体制の整備を行っております。

当社は子会社の業務の適正を確保するための体制整備として、「関係会社管理規程」を定め、各子会社の事業内容によって定められた当社の主管部署が指導・育成を行うとともに営業・財務等の経営状況について定期的に報告を受け、重要経営事項については当社の了承を受け実行するものとしております。また、各子会社で当社の「コンプライアンス規程」等の制度に準じる諸規程を定め、当社グループ全体のコンプライアンスの徹底を図っております。

会計監査の状況

当社は、会計監査につきましては有限責任 あずさ監査法人と監査契約を結び、会計監査を受けております。当事業年度において当社の会計監査業務を執行した公認会計士の氏名及び会計監査業務に係る補助者の構成は以下のとおりです。

・業務を執行した公認会計士の氏名

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 川上 尚志

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 戸谷 且典

・ 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 5名
その他 3名

当社と社外取締役及び社外監査役との関係

当社と渡会取締役、中井取締役、津田監査役及び沖監査役の間には人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係はありません。

渡会取締役は、経営者としての経験を当社経営に反映し、業務執行を行う経営陣から独立した客観的視点に基づき提言する幅広い知識と豊富な経験を有しております。中井取締役は、金融分野等における経験を当社経営に反映し、業務執行を行う経営陣から独立した客観的視点に基づき提言する幅広い知識と豊富な経験を有しております。

津田監査役は、(株)商船三井の監査役経験者であり、監査役としての専門的知識に基づいた経営判断の妥当性、業務執行のチェックを行う幅広い知識と豊富な経験を有しております。沖監査役は、公認会計士としての長年の経験と知見に基づき、経営判断の妥当性、業務執行のチェックを行う幅広い知識と豊富な経験を有しております。

当社は上述の理由により、社外取締役及び社外監査役を選任しております。

社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する明文化された基準又は方針はありませんが、東京証券取引所の独立役員に関する判断基準に基づき、独立役員を3名選任いたしております。各々の経験と知見から経営判断の妥当性並びに業務執行の状況についてチェックを行うことにより、企業統治上大きな役割を果たしております。

なお、社外取締役及び社外監査役はともに取締役会に出席しており、取締役会における内部監査・会計監査・内部統制に関する決議・報告・討議に適宜参加・監査・監督をしております。

責任限定契約の内容の概要

当社と取締役（業務執行取締役等である者を除く）及び監査役との間で会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第425条第1項に定める最低責任限度額を限度として同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

役員報酬等

イ．役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	268,450	148,700	73,900	45,850	12
監査役 (社外監査役を除く。)	19,020	13,200		5,820	2
社外役員	34,060	31,200		2,860	5

ロ．役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

取締役報酬は、平成4年6月26日開催の第125回定時株主総会において報酬限度額を月額25,000千円以内と決議いただいております。その範囲内で役職に応じて規程により報酬額を決定しております。

監査役報酬は、平成28年6月24日開催の第149回定時株主総会において報酬限度額を月額3,500千円以内と決議いただいております。その範囲内で監査役会の協議により報酬額を決定しております。

株式の保有状況

- イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額
44銘柄 2,108,457千円
- ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
前事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
三井物産(株)	468,136	754,869	取引関係の維持・強化を図るため
(株)コンコルディア・フィナンシャルグループ	341,870	176,199	取引関係の維持・強化を図るため
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	25,920	100,051	取引関係の維持・強化を図るため
MS&ADインシュアランスグループホールディングス(株)	25,323	89,643	取引関係の維持・強化を図るため
住友商事(株)	56,500	84,608	取引関係の維持・強化を図るため
日産自動車(株)	73,900	79,331	取引関係の維持・強化を図るため
サッポロホールディングス(株)	17,000	48,762	取引関係の維持・強化を図るため
アサヒグループホールディングス(株)	10,000	42,080	取引関係の維持・強化を図るため
東芝プラントシステム(株)	21,243	34,519	取引関係の維持・強化を図るため
(株)東芝	53,130	12,825	取引関係の維持・強化を図るため
井関農機(株)	50,194	11,444	取引関係の維持・強化を図るため
蔵王産業(株)	5,000	7,300	取引関係の維持・強化を図るため
(株)三井住友フィナンシャルグループ	1,793	7,252	取引関係の維持・強化を図るため
東京電力ホールディングス(株)	12,735	5,552	取引関係の維持・強化を図るため
(株)東京エネシス	2,662	2,550	取引関係の維持・強化を図るため

当事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
三井物産(株)	468,136	853,177	取引関係の維持・強化を図るため
(株)コンコルディア・フィナンシャルグループ	341,870	200,677	取引関係の維持・強化を図るため
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	25,920	111,637	取引関係の維持・強化を図るため
住友商事(株)	56,500	101,191	取引関係の維持・強化を図るため
M S & A D インシュアランスグループホールディングス(株)	25,323	84,958	取引関係の維持・強化を図るため
日産自動車(株)	73,900	81,585	取引関係の維持・強化を図るため
アサヒグループホールディングス(株)	10,000	56,670	取引関係の維持・強化を図るため
サッポロホールディングス(株)	17,000	52,700	取引関係の維持・強化を図るため
東芝プラントシステム(株)	21,243	48,710	取引関係の維持・強化を図るため
(株)東芝	53,130	16,364	取引関係の維持・強化を図るため
井関農機(株)	5,019	10,580	取引関係の維持・強化を図るため
蔵王産業(株)	5,000	8,635	取引関係の維持・強化を図るため
(株)三井住友フィナンシャルグループ	1,793	7,993	取引関係の維持・強化を図るため
東京電力ホールディングス(株)	12,735	5,221	取引関係の維持・強化を図るため
(株)東京エネシス	2,662	3,186	取引関係の維持・強化を図るため

取締役の定数

当社の取締役は18名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

株主総会の特別決議

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款で定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

自己の株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって、自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等により自己の株式を取得することを目的とするものであります。

中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	40,000		56,800	
連結子会社				
計	40,000		56,800	

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社は、当社の事業規模から合理的監査日数を勘案し、監査役会の同意を得て、取締役会において適正な監査報酬額を決定しております。

第5 【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による監査を受けております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、各種情報を取得するとともに、監査法人及び各種団体が主催する研修・セミナーに参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2 3,424,184	2 3,421,638
受取手形及び営業未収入金	9,381,598	9,640,888
貯蔵品	73,596	74,868
繰延税金資産	364,979	386,831
関係会社短期貸付金	7,194,098	9,823,620
その他	1,896,207	1,316,022
貸倒引当金	4,422	117,151
流動資産合計	22,330,241	24,546,718
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	20,480,283	20,483,582
減価償却累計額	15,937,202	16,311,989
建物及び構築物(純額)	3 4,543,080	3 4,171,593
機械装置及び運搬具	10,506,488	11,131,202
減価償却累計額	8,955,494	9,092,185
機械装置及び運搬具(純額)	3 1,550,993	3 2,039,017
工具、器具及び備品	1,428,702	1,517,875
減価償却累計額	1,080,605	1,192,604
工具、器具及び備品(純額)	348,097	325,270
土地	2,658,876	2,665,124
リース資産	793,789	713,950
減価償却累計額	410,332	412,685
リース資産(純額)	383,456	301,265
建設仮勘定	3 233,714	295,410
有形固定資産合計	9,718,220	9,797,681
無形固定資産		
借地権	1,699,457	1,699,457
のれん	504,683	409,488
その他	452,004	444,272
無形固定資産合計	2,656,146	2,553,218
投資その他の資産		
投資有価証券	1 2,141,433	1 2,362,664
長期貸付金	-	666,000
繰延税金資産	798,854	742,854
その他	1 1,320,046	1,136,329
貸倒引当金	14,035	325,675
投資その他の資産合計	4,246,299	4,582,172
固定資産合計	16,620,666	16,933,072
資産合計	38,950,907	41,479,791

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	3,932,425	3,971,831
短期借入金	640,200	663,300
1年内返済予定の長期借入金	25,920	27,680
リース債務	165,477	153,058
未払法人税等	508,171	775,517
未払費用	521,638	400,244
賞与引当金	778,100	806,579
役員賞与引当金	72,200	80,364
その他	708,128	867,760
流動負債合計	7,352,261	7,746,336
固定負債		
長期借入金	71,280	48,440
リース債務	268,469	194,355
繰延税金負債	4,757	6,218
役員退職慰労引当金	213,002	230,660
退職給付に係る負債	2,749,075	2,770,095
資産除去債務	29,790	55,098
その他	222,069	209,662
固定負債合計	3,558,444	3,514,530
負債合計	10,910,705	11,260,867
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,155,300	2,155,300
資本剰余金	330,659	330,659
利益剰余金	24,225,077	26,202,198
自己株式	30,452	30,491
株主資本合計	26,680,584	28,657,667
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	784,193	911,157
為替換算調整勘定	572,619	635,413
退職給付に係る調整累計額	59,169	51,497
その他の包括利益累計額合計	1,297,642	1,495,073
非支配株主持分	61,974	66,183
純資産合計	28,040,201	30,218,924
負債純資産合計	38,950,907	41,479,791

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
営業収入	51,041,259	55,870,741
営業費用	40,168,539	43,994,531
営業総利益	10,872,720	11,876,209
販売費及び一般管理費	1 7,959,894	1 8,661,184
営業利益	2,912,825	3,215,025
営業外収益		
受取利息	39,119	38,461
受取配当金	58,680	61,996
受取賠償金	-	41,592
受取賃貸料	49,155	41,234
助成金収入	8,970	10,512
その他	50,896	93,573
営業外収益合計	206,822	287,370
営業外費用		
支払利息	10,764	11,872
持分法による投資損失	27,498	57,340
為替差損	22,680	5,339
その他	1,120	1,033
営業外費用合計	62,063	75,585
経常利益	3,057,584	3,426,810
特別利益		
固定資産売却益	2 357,666	2 20,709
投資有価証券売却益	6,684	-
関係会社出資金売却益	-	175,484
ゴルフ会員権売却益	-	310
受取賠償金	-	80,111
特別利益合計	364,350	276,615
特別損失		
固定資産除売却損	3, 4 31,692	3, 4 19,220
投資有価証券売却損	8,000	-
ゴルフ会員権売却損	-	7,930
ゴルフ会員権評価損	4,900	9,704
特別損失合計	44,592	36,855
税金等調整前当期純利益	3,377,341	3,666,570
法人税、住民税及び事業税	1,001,361	1,324,014
法人税等調整額	99,769	23,621
法人税等合計	1,101,130	1,300,393
当期純利益	2,276,210	2,366,177
親会社株主に帰属する当期純利益	2,276,210	2,366,177

【連結包括利益計算書】

	(単位：千円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
当期純利益	2,276,210	2,366,177
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	145,764	126,964
為替換算調整勘定	182,409	152,390
持分法適用会社に対する持分相当額	33,835	85,387
退職給付に係る調整額	22,047	7,672
その他の包括利益合計	1, 2 48,432	1, 2 201,639
包括利益	2,227,778	2,567,816
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,229,499	2,563,608
非支配株主に係る包括利益	1,721	4,208

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,155,300	330,659	22,339,974	30,444	24,795,489
当期変動額					
剰余金の配当			389,227		389,227
親会社株主に帰属する 当期純利益			2,276,210		2,276,210
連結範囲の変動			1,880		1,880
自己株式の取得				8	8
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	1,885,102	8	1,885,094
当期末残高	2,155,300	330,659	24,225,077	30,452	26,680,584

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	638,428	787,142	81,217	1,344,354	63,696	26,203,540
当期変動額						
剰余金の配当						389,227
親会社株主に帰属する 当期純利益						2,276,210
連結範囲の変動						1,880
自己株式の取得						8
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	145,764	214,523	22,047	46,711	1,721	48,432
当期変動額合計	145,764	214,523	22,047	46,711	1,721	1,836,661
当期末残高	784,193	572,619	59,169	1,297,642	61,974	28,040,201

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,155,300	330,659	24,225,077	30,452	26,680,584
当期変動額					
剰余金の配当			389,227		389,227
親会社株主に帰属する 当期純利益			2,366,177		2,366,177
連結範囲の変動			170		170
自己株式の取得				38	38
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	1,977,121	38	1,977,083
当期末残高	2,155,300	330,659	26,202,198	30,491	28,657,667

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	784,193	572,619	59,169	1,297,642	61,974	28,040,201
当期変動額						
剰余金の配当						389,227
親会社株主に帰属する 当期純利益						2,366,177
連結範囲の変動						170
自己株式の取得						38
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	126,964	62,794	7,672	197,430	4,208	201,639
当期変動額合計	126,964	62,794	7,672	197,430	4,208	2,178,722
当期末残高	911,157	635,413	51,497	1,495,073	66,183	30,218,924

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	(自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)		(自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー				
税金等調整前当期純利益	3,377,341		3,666,570	
減価償却費	1,489,743		1,567,258	
のれん償却額	47,597		95,194	
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	31,977		17,658	
賞与引当金の増減額(は減少)	11,141		28,479	
役員賞与引当金の増減額(は減少)	6,700		8,164	
貸倒引当金の増減額(は減少)	12,383		424,369	
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	36,103		29,954	
ゴルフ会員権売却損益(は益)	-		7,620	
ゴルフ会員権評価損	4,900		9,704	
受取利息及び受取配当金	97,800		100,458	
支払利息	10,764		11,872	
固定資産除売却損益(は益)	325,973		1,488	
持分法による投資損益(は益)	27,498		57,340	
投資有価証券売却損益(は益)	1,316		-	
受取賠償金	-		121,704	
関係会社出資金売却損益(は益)	-		175,484	
営業債権の増減額(は増加)	283,400		438,343	
営業債務の増減額(は減少)	92,112		53,069	
未払又は未収消費税等の増減額	165,304		108,418	
その他の資産の増減額(は増加)	309,130		87,179	
その他の負債の増減額(は減少)	173,139		7,473	
その他	44,866		14,926	
小計	4,061,569		5,168,470	
利息及び配当金の受取額	98,285		100,192	
利息の支払額	9,932		11,900	
法人税等の支払額	675,303		1,091,406	
賠償金の受取額	-		121,704	
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,474,618		4,287,060	
投資活動によるキャッシュ・フロー				
有形固定資産の取得による支出	1,311,882		1,471,505	
有形固定資産の売却による収入	389,589		19,215	
投資有価証券の取得による支出	-		38,625	
投資有価証券の売却による収入	9,284		0	
関係会社出資金の売却による収入	-		369,393	
定期預金の預入による支出	585,001		343,650	
定期預金の払戻による収入	646,492		585,001	
貸付けによる支出	14,937,790		13,418,350	
貸付金の回収による収入	14,600,984		10,808,992	
事業譲受による支出	2	1,500,000	-	
その他の支出	268,523		148,324	
その他の収入	9,753		48,042	
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,947,093		3,589,808	

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	194,400	-
長期借入金の返済による支出	26,929	27,680
ファイナンス・リース債務の返済による支出	192,795	182,329
配当金の支払額	388,305	388,425
その他	8	37
財務活動によるキャッシュ・フロー	413,639	598,472
現金及び現金同等物に係る換算差額	108,508	57,006
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	5,377	155,785
現金及び現金同等物の期首残高	2,817,751	2,839,182
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	16,053	83,020
現金及び現金同等物の期末残高	1 2,839,182	1 3,077,988

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社は、宇徳ロジスティクス(株)、宇徳港運(株)、九州宇徳(株)、宇徳トランスネット(株)、宇徳流通サービス(株)、(株)宇徳ビジネスサポート、宇徳プラントサービス(株)、ターミナル・エンジニアリング(株)、宇徳ターミナルサービス(株)、UTOC ENGINEERING PTE.LTD.、UTOC (THAILAND) CO.,LTD.、UTOC AMERICA, INC.、ASIA UTOC PTE.LTD.、UTOC PLANT CONSTRUCTION SDN.BHD.、宇徳物流(天津)有限公司の15社であります。

なお、前連結会計年度において非連結子会社でありました宇徳物流(天津)有限公司は重要性が増したため、当連結会計年度において新たに連結の範囲に含めております。

非連結子会社は、アジアカーゴサービス(株)であります。非連結子会社は小規模であり、総資産、営業収入、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除いております。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用した関連会社数0社

持分法適用の関連会社であった鉄宇国際運輸(天津)有限公司は、保有出資持分の売却に伴い、当連結会計年度において持分法適用の範囲から除外しております。

また、これにより持分法非適用の関連会社であった天津鉄宇報関有限公司についても、当社の関連会社から除外しております。

持分法を適用していない非連結子会社は、アジアカーゴサービス(株)、持分法を適用していない関連会社は、(株)日本エンジニアリング及び金港船舶作業(株)であります。

持分法を適用していない会社は、それぞれ当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、これらの会社に対する投資については、持分法を適用しておりません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、UTOC ENGINEERING PTE.LTD.、UTOC (THAILAND) CO.,LTD.、UTOC AMERICA, INC.、ASIA UTOC PTE.LTD.、UTOC PLANT CONSTRUCTION SDN.BHD.及び宇徳物流(天津)有限公司の決算日は、12月31日であります。

連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、連結決算日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。その他の連結子会社の決算日は、すべて連結決算日と同一であります。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

満期保有目的債券

償却原価法(定額法)

その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

デリバティブ

時価法

貯蔵品

先入先出法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

当社及び国内連結子会社は定率法を採用しております。ただし、倉庫用及び賃貸用資産の一部、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）、並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。また、在外連結子会社は定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物	2～50年
機械装置及び運搬具	4～17年
工具、器具及び備品	2～20年

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

役員賞与引当金

役員の賞与の支出に備えて、当連結会計年度における支給見込額を計上しております。

役員退職慰労引当金

当社及び国内連結子会社において、役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日翌連結会計年度から費用処理することとしております。

小規模企業等における簡便法の採用

当社の一部の退職給付制度及び一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産、負債、収益及び費用は決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

振当処理の要件を満たす為替予約について振当処理を、金利スワップについて特例処理の条件を充たしている場合には特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段は為替予約及び金利スワップ、ヘッジ対象は主として外貨建債権・債務及び借入金利息であります。

ヘッジ方針

主として為替変動リスク及び金利変動リスクを回避するため、外貨建債権・債務及び借入金の残高の範囲内でヘッジ取引を行っております。なお、投機目的のためのデリバティブ取引は行わない方針であります。

ヘッジの有効性評価の方法

原則として、為替予約取引締結時より、外貨建債権・債務の決済時までの期間における外貨建債権・債務と為替予約の対応関係を基礎として判断しております。また、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、その効果が発現する期間を個別に見積もり、当該期間にわたって均等償却しております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式を採用しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

平成34年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、「販売費及び一般管理費」の主要な費目及び金額の注記に記載していなかった「貸倒引当金繰入額」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より注記することとしております。

この結果、前連結会計年度において表示していなかった「貸倒引当金繰入額」 11,438千円は、「販売費及び一般管理費」の主要な費目及び金額の注記に記載することとしております。

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
投資有価証券(株式)	5,101千円	43,726千円
投資その他の資産・その他(出資金)	419,064	

2 担保提供資産

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
現金及び預金(定期預金)(注)	5,824千円 (50千米ドル)	5,650千円 (50千米ドル)

(注) 銀行信用状発行の担保に供しております。

3 当期において、国庫補助金等の受入れにより、建物及び構築物について7,987千円、機械装置及び運搬具について140,333千円の圧縮記帳を行いました。

なお、有形固定資産に係る国庫補助金等の受入れによる圧縮記帳累計額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
建物及び構築物	476千円	8,464千円
機械装置及び運搬具	399,371	624,704
建設仮勘定	85,000	

4 保証債務

次の会社の金融機関借入金について保証をしております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
(株)ワールド流通センター	73,000千円	千円

なお、上記金額は当社負担金額を記載しており、他社負担金額を含めた連帯保証債務総額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
	921,300千円	千円

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
給料	3,560,497千円	3,631,263千円
賞与引当金繰入額	589,403	617,090
役員賞与引当金繰入額	72,200	73,900
退職給付費用	215,495	249,635
役員退職慰労引当金繰入額	66,272	79,678
福利厚生費	892,098	952,031
貸倒引当金繰入額	11,438	319,354
減価償却費	157,940	207,611
のれん償却額	47,597	95,194

2 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物及び構築物	37千円	千円
機械装置及び運搬具	7,304	20,709
工具、器具及び備品	443	
土地	349,881	
計	357,666	20,709

3 固定資産売却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
機械装置及び運搬具	247千円	千円
工具、器具及び備品		2,297
計	247	2,297

4 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物及び構築物	23,375千円	13,895千円
機械装置及び運搬具	1,381	0
工具、器具及び備品	5,411	2,422
リース資産	1,277	
無形固定資産(その他)		604
計	31,445	16,922

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	211,995千円	182,606千円
組替調整額	6,684	0
計	205,311	182,606
為替換算調整勘定：		
当期発生額	182,409	152,390
組替調整額		
計	182,409	152,390
持分法適用会社に対する持分相当額：		
当期発生額	33,835	90,097
組替調整額		175,484
計	33,835	85,387
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	16,169	3,189
組替調整額	15,599	14,244
計	31,768	11,055
税効果調整前合計	20,835	260,663
税効果額	69,268	59,024
その他の包括利益合計	48,432	201,639

2 その他の包括利益に係る税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
税効果調整前	205,311千円	182,606千円
税効果額	59,546	55,641
税効果調整後	145,764	126,964
為替換算調整勘定：		
税効果調整前	182,409	152,390
税効果額		
税効果調整後	182,409	152,390
持分法適用会社に対する持分相当額：		
税効果調整前	33,835	85,387
税効果額		
税効果調整後	33,835	85,387
退職給付に係る調整額：		
税効果調整前	31,768	11,055
税効果額	9,721	3,382
税効果調整後	22,047	7,672
その他の包括利益合計		
税効果調整前	20,835	260,663
税効果額	69,268	59,024
税効果調整後	48,432	201,639

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(千株)	当連結会計年度 増加株式数 (千株)	当連結会計年度 減少株式数 (千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	43,448			43,448
合計	43,448			43,448
自己株式				
普通株式(注)	200	0		200
合計	200	0		200

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加0千株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月24日 定時株主総会	普通株式	389,227	9.0	平成28年3月31日	平成28年6月27日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年6月28日 定時株主総会	普通株式	389,227	利益剰余金	9.0	平成29年3月31日	平成29年6月29日

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(千株)	当連結会計年度 増加株式数 (千株)	当連結会計年度 減少株式数 (千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	43,448			43,448
合計	43,448			43,448
自己株式				
普通株式(注)	200	0		200
合計	200	0		200

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加0千株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月28日 定時株主総会	普通株式	389,227	9.0	平成29年3月31日	平成29年6月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年6月28日 定時株主総会	普通株式	432,473	利益剰余金	10.0	平成30年3月31日	平成30年6月29日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
現金及び預金勘定	3,424,184千円	3,421,638千円
預入期間が3か月を超える定期預金	585,001	343,650
現金及び現金同等物	2,839,182	3,077,988

2 事業の譲受けにより増加した資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

前連結会計年度に事業の譲受けにより増加した資産及び負債の主な内訳は次のとおりであります。

流動資産	9,141 千円
固定資産	943,036
のれん	552,281
その他の包括利益累計額	4,460
事業譲受価額	1,500,000
現金及び現金同等物	
差引：事業譲受による支出	1,500,000

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

3 重要な非資金取引の内容

ファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
ファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額	178,272 千円	97,849千円

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア)有形固定資産

各事業における荷役設備(機械装置及び運搬具、工具、器具及び備品)等であります。

(イ)無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
1年内	61,641	
1年超		
合計	61,641	

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループにおける資金運用は、余剰資金を短期的な預金等に限定して運用し、不足資金については銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。

受取手形及び営業未収入金に係る顧客の信用リスクは、与信管理規程に沿ってリスク低減を図っております。また、投資有価証券は主として株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。

関係会社短期貸付金は、一時的な余剰資金をキャッシュ・マネジメント・システムによって資金運用しております。

借入金の主な用途は運転資金及び設備投資資金であり、長期借入金の金利変動リスクに対しては、必要に応じて金利スワップ取引の利用を検討しております。

デリバティブは、為替変動リスク及び金利変動リスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び営業未収入金は、顧客の信用リスクに晒されております。また外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されております。

関係会社短期貸付金は、関係会社の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び営業未払金は、そのほとんどが2ヶ月以内の支払期日であります。また外貨建ての営業債務は、為替の変動リスクに晒されております。

長期借入金は、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、償還日は決算日後4年以内であります。長期借入金は、金利変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は受注管理規程及び与信管理規程に従い、営業債権について、営業部署が取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても当社と同様な管理を行っております。

デリバティブ取引については、格付の高い金融機関に限定しているため信用リスクはほとんど無いと認識しております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社は外貨建ての営業債権及び営業債務について、必要に応じて為替予約の利用を検討しております。また、長期借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、必要に応じて金利スワップ取引の利用を検討しております。

投資有価証券は、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況を把握しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、客先支払明細や各部署からの報告をもとに月末入金予定及び、支払管理システムから出力した支払予定明細に基づき、資金繰り予定を作成し流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格が無い場合には合理的に算出された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

前連結会計年度（平成29年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 （千円）	時価（千円）	差額（千円）
(1) 現金及び預金	3,424,184	3,424,184	
(2) 受取手形及び営業未収入金	9,381,598	9,381,598	
(3) 関係会社短期貸付金	7,194,098	7,194,098	
(4) 投資有価証券	1,668,954	1,668,954	
資産計	21,668,835	21,668,835	
(1) 支払手形及び営業未払金	3,932,425	3,932,425	
(2) 短期借入金	640,200	640,200	
(3) 長期借入金()	97,200	97,200	
負債計	4,669,825	4,669,825	

()長期借入金には、1年以内返済予定の長期借入金を含めて表示しております。

当連結会計年度（平成30年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 （千円）	時価（千円）	差額（千円）
(1) 現金及び預金	3,421,638	3,421,638	
(2) 受取手形及び営業未収入金	9,640,888	9,640,888	
(3) 関係会社短期貸付金	9,823,620	9,823,620	
(4) 投資有価証券	1,851,560	1,851,560	
(5) 長期貸付金	666,000	808,474	142,474
資産計	25,403,707	25,546,181	142,474
(1) 支払手形及び営業未払金	3,971,831	3,971,831	
(2) 短期借入金	663,300	663,300	
(3) 長期借入金()	76,120	76,120	
負債計	4,711,251	4,711,251	

()長期借入金には、1年以内返済予定の長期借入金を含めて表示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び営業未収入金並びに(3) 関係会社短期貸付金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は元利金の合計額を当該債券の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

(5) 長期貸付金

長期貸付金は、一定の期間ごとに分類し、その将来キャッシュ・フローを国債の利回りを基準とした利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負 債

(1) 支払手形及び営業未払金、(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金

長期借入金の変動金利については、短期間で市場金利を反映しており、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
非上場株式	472,479	511,104

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(4) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	3,424,184			
受取手形及び営業未収入金	9,381,598			
関係会社短期貸付金	7,194,098			
投資有価証券 その他有価証券のうち満期があるもの 債券(社債)		200,000		
合計	19,999,880	200,000		

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	3,421,638			
受取手形及び営業未収入金	9,640,888			
関係会社短期貸付金	9,823,620			
投資有価証券 その他有価証券のうち満期があるもの 債券(社債)		200,000		
長期貸付金		222,000	444,000	
合計	22,886,147	422,000	444,000	

4. 社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	640,200					
長期借入金	25,920	25,920	25,920	19,440		
合計	666,120	25,920	25,920	19,440		

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	663,300					
長期借入金	27,680	27,680	20,760			
合計	690,980	27,680	20,760			

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表 計上額が取得原 価を超えるもの	(1) 株式	1,456,991	384,852	1,072,138
	(2) 債券			
	国債・地方債等			
	社債	211,963	200,000	11,963
	その他			
	(3) その他			
	小計	1,668,954	584,852	1,084,101
連結貸借対照表 計上額が取得原 価を超えないもの	(1) 株式			
	(2) 債券			
	国債・地方債等			
	社債			
	その他			
	(3) その他			
	小計			
合計		1,668,954	584,852	1,084,101

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 472,479千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度（平成30年3月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表 計上額が取得原 価を超えるもの	(1) 株式	1,643,289	384,852	1,258,436
	(2) 債券			
	国債・地方債等			
	社債	208,271	200,000	8,271
	その他			
	(3) その他			
	小計	1,851,560	584,852	1,266,707
連結貸借対照表 計上額が取得原 価を超えないも の	(1) 株式			
	(2) 債券			
	国債・地方債等			
	社債			
	その他			
	(3) その他			
	小計			
合計		1,851,560	584,852	1,266,707

(注) 非上場株式（連結貸借対照表計上額 511,104千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計額（千円）	売却損の合計額（千円）
(1) 株式	10,284	6,684	8,000
(2) 債券			
国債・地方債等			
社債			
その他			
(3) その他			
合計	10,284	6,684	8,000

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計額（千円）	売却損の合計額（千円）
(1) 株式	0	0	
(2) 債券			
国債・地方債等			
社債			
その他			
(3) その他			
合計	0	0	

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社、国内連結子会社及び一部の在外連結子会社は、非積立型の確定給付制度として、退職一時金制度を設けております。

また、当社の職員に対して確定拠出年金制度を、当社、宇徳トランスネット(株)及び宇徳港運(株)の港湾労働者に対して港湾労働者年金制度を採用しているほか、宇徳ロジスティクス(株)は退職金の一部について、勤労者退職金共済機構(中退共)に加入しております。

なお、従業員の退職等に際して、退職給付会計に準拠した数理計算による退職給付債務の対象とされない割増退職金等を支払う場合があります。

当社の一部の退職一時金制度及び港湾労働者年金制度、並びに、連結子会社が有する退職一時金制度及び港湾労働者年金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表(簡便法を適用した制度を除く。)

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付債務の期首残高	1,200,318	1,178,889
勤務費用	80,433	92,913
利息費用	2,040	4,126
数理計算上の差異の発生額	16,169	3,189
退職給付の支払額	87,733	104,346
退職給付債務の期末残高	1,178,889	1,174,771

(2) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	1,545,533	1,570,186
退職給付費用	190,136	198,962
退職給付の支払額	153,856	166,031
制度への拠出額	10,516	9,913
その他	1,110	2,120
退職給付に係る負債の期末残高	1,570,186	1,595,324

(注) その他は、海外子会社の退職給付に係る負債から発生した換算差額等であります。

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	(千円)	
	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
非積立型制度の退職給付債務	2,749,075	2,770,095
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,749,075	2,770,095
退職給付に係る負債	2,749,075	2,770,095
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,749,075	2,770,095

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
勤務費用	80,433	92,913
利息費用	2,040	4,126
数理計算上の差異の費用処理額	15,599	14,244
簡便法で計算した退職給付費用	190,136	198,962
確定給付制度に係る退職給付費用	288,209	310,246

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
数理計算上の差異	31,768	11,055
合計	31,768	11,055

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	(千円)	
	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
未認識数理計算上の差異	85,258	74,203
合計	85,258	74,203

(7) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎(加重平均で表しております。)

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
割引率	0.35%	0.29%

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度57,798千円、当連結会計年度63,395千円であります。

また、連結子会社の中退共への要拠出額は、前連結会計年度1,710千円、当連結会計年度1,545千円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産(流動)		
賞与引当金	248,591千円	241,286千円
未払事業税	33,852	73,363
その他	89,724	72,901
小計	372,168	387,551
評価性引当額	7,189	720
計	364,979	386,831
繰延税金負債(流動)		
繰延税金資産(流動)の純額	364,979	386,831
繰延税金資産(固定)		
退職給付に係る負債	876,210	881,264
役員退職慰労引当金	67,109	72,826
貸倒引当金	4,612	134,871
ゴルフ会員権評価損	29,038	29,898
投資有価証券評価損	43,471	43,471
減損損失	387,739	365,129
資産調整勘定	133,381	99,861
税務上の繰越欠損金	108,507	112,636
その他	267,562	282,142
小計	1,917,633	2,022,103
評価性引当額	297,996	402,764
計	1,619,637	1,619,339
繰延税金負債との相殺額	820,782	876,484
繰延税金資産(固定)の純額	798,854	742,854
繰延税金負債(固定)		
固定資産圧縮積立金	472,064	452,747
その他有価証券評価差額金	299,908	355,550
海外関係会社留保利益に対する税効果	44,073	50,935
その他	9,493	23,469
計	825,539	882,702
繰延税金資産との相殺額	820,782	876,484
繰延税金負債(固定)の純額	4,757	6,218

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった
主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.83%	30.83%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.82	0.69
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.13	0.13
評価性引当額の増減	0.84	2.91
住民税均等割	0.65	0.62
のれん償却額	0.43	0.80
連結調整項目	1.09	0.32
その他	0.25	0.07
税効果会計適用後の法人税等の負担率	32.60	35.47

(企業結合等関係)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

(資産除去債務関係)

前連結会計年度末(平成29年3月31日)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

当連結会計年度末(平成30年3月31日)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

当社及び一部の連結子会社では、横浜市、東京都その他の地域において、賃貸用のオフィスビル等(土地を含む。)を所有しております。前連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は574,684千円(主な賃貸収益は営業収入に、主な賃貸費用は営業費用に計上)、固定資産売却益は37千円(特別利益に計上)、固定資産除却損は262千円(特別損失に計上)であります。当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は587,472千円(主な賃貸収益は営業収入に、主な賃貸費用は営業費用に計上)、固定資産除却損は4,781千円(特別損失に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
賃貸等不動産		
連結貸借対照表計上額		
期首残高	4,594,648	4,577,298
期中増減額	17,350	348,059
期末残高	4,577,298	4,925,357
期末時価	11,783,213	13,684,160

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
2. 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な増加額は改修(220,846千円)及び事業譲受(84,909千円)によるものであり、主な減少額は売却(662千円)及び減価償却(277,093千円)であります。当連結会計年度の主な増加額は改修(113,076千円)によるものであり、主な減少額は除却(6,331千円)及び減価償却(223,895千円)であります。
3. 期末の時価は、主として不動産鑑定士による原則的時価算定(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)に基づく金額によっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、当社及び連結子会社の構成単位に分類された財務情報に基づき、事業活動のセグメントから構成され、「港湾事業」及び「プラント・物流事業」の2つを報告セグメントとしております。

「港湾事業」は、港湾運送作業、ターミナル作業及び港湾関連作業を行っております。

「プラント・物流事業」は、一般貨物の輸送及び取扱業、貨物保管荷捌及び通関業、並びに大型機械・機器等の輸送据付、保繕作業及び構内作業まで多岐に亘り事業を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告セグメントの利益は、経常利益ベースの数値であります。なお、セグメント間の取引は、市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)3	連結財務諸表 計上額 (注)2
	港湾事業	プラント・ 物流事業	計				
営業収入							
外部顧客への営業収入	23,419,972	27,123,943	50,543,915	497,344	51,041,259		51,041,259
セグメント間の内部営業 収入又は振替高	811,226	629,712	1,440,938	100,334	1,541,273	(1,541,273)	
計	24,231,198	27,753,655	51,984,854	597,679	52,582,533	(1,541,273)	51,041,259
セグメント利益	2,146,912	806,313	2,953,226	104,357	3,057,584		3,057,584
セグメント資産	10,001,658	24,449,312	34,450,970	2,039,001	36,489,972	2,460,935	38,950,907
その他の項目							
減価償却費	439,750	942,123	1,381,874	107,869	1,489,743		1,489,743
受取利息	11,130	27,088	38,219	900	39,119		39,119
支払利息	662	10,048	10,710	53	10,764		10,764
持分法投資損失()		27,498	27,498		27,498		27,498
持分法適用会社への投資額		336,018	336,018		336,018		336,018
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	499,295	1,831,379	2,330,674	243,117	2,573,791		2,573,791

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸業等を含んでおりません。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

3. セグメント資産の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社資産2,460,935千円であります。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)3	連結財務諸表 計上額 (注)2
	港湾事業	プラント・ 物流事業	計				
営業収入							
外部顧客への営業収入	23,563,607	31,826,029	55,389,637	481,104	55,870,741		55,870,741
セグメント間の内部営業 収入又は振替高	778,504	692,674	1,471,178	105,105	1,576,284	(1,576,284)	
計	24,342,112	32,518,703	56,860,815	586,210	57,447,026	(1,576,284)	55,870,741
セグメント利益	2,465,977	891,820	3,357,797	69,012	3,426,810		3,426,810
セグメント資産	10,455,817	26,834,466	37,290,283	2,034,979	39,325,263	2,154,527	41,479,791
その他の項目							
減価償却費	467,475	992,202	1,459,678	107,580	1,567,258		1,567,258
受取利息	9,984	27,517	37,501	960	38,461		38,461
支払利息	643	11,165	11,809	63	11,872		11,872
持分法投資損失()		57,340	57,340		57,340		57,340
持分法適用会社への投資額							
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	843,041	927,869	1,770,910	106,633	1,877,544		1,877,544

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸業等を含んでおり
ます。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

3. セグメント資産の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社資産2,154,527千円であります。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	アジア	米国	合計
45,451,991	5,503,591	85,676	51,041,259

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	アジア	米国	合計
8,876,580	839,905	1,733	9,718,220

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
株式会社商船三井	10,320,989	港湾事業

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	アジア	米国	合計
47,984,680	7,870,745	15,315	55,870,741

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	アジア	米国	合計
9,064,677	731,771	1,232	9,797,681

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
株式会社商船三井	10,305,429	港湾事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	港湾事業	プラント・ 物流事業	計			
当期償却額		47,597	47,597			47,597
当期末残高		504,683	504,683			504,683

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	港湾事業	プラント・ 物流事業	計			
当期償却額		95,194	95,194			95,194
当期末残高		409,488	409,488			409,488

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所 有(被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	株式会社商 船三井	東京都 港区	65,400,351	海運業	(被所有) 直接 66.89 間接 0.66	港湾運送業 務の役務の 提供 役員の兼任	港湾事業収入	10,267,105	営業未収 入金	1,005,843
							資金の貸付	6,870,089	関係会社 短期貸付 金	7,194,098

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所 有(被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	株式会社商 船三井	東京都 港区	65,400,351	海運業	(被所有) 直接 66.89 間接 0.66	港湾運送業 務の役務の 提供 役員の兼任	港湾事業収入	10,265,817	営業未収 入金	1,008,272
							資金の貸付	8,264,678	関係会社 短期貸付 金	9,823,620

(注) 1. 上記の金額のうち、期末残高には消費税等が含まれており、取引金額には消費税等が含まれておりません。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(1) 輸出入貨物の荷役輸送については、届出料金である港湾運送料金表を基に交渉により決定しております。

(2) 港湾荷役作業については、届出料金である港湾運送料金表を基に交渉により決定しております。

(3) 資金の貸付については、グループ内余剰資金の運用を目的としたキャッシュ・マネジメント・システムに基づく貸付であり、市場金利を勘案して利率を決定しております。なお、取引金額については、期中平均残高を記載しております。

(イ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所 有(被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
同一の 親会社 を持つ 会社	株式会 社 ジャ パン エ キ ス プ レ ス	東京 都 千 代 田 区	236,000	運送事業	(所有) 直接 12.95 間接		事業の譲受	1,250,000		

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておりません。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

事業譲受の譲受対価は第三者機関に算定を依頼し、双方協議の上決定しております。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所 有(被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	株式会社商船三井	東京都港区	65,400,351	海運業	(被所有) 直接 66.89 間接 0.66	港湾運送業務の役務の提供 役員の兼任	港湾事業収入	53,884	営業未収入金	

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所 有(被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	株式会社商船三井	東京都港区	65,400,351	海運業	(被所有) 直接 66.89 間接 0.66	港湾運送業務の役務の提供 役員の兼任	港湾事業収入	39,611	営業未収入金	

(注) 1. 上記の金額のうち、期末残高には消費税等が含まれており、取引金額には消費税等が含まれておりません。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(1) 輸出入貨物の荷役輸送については、届出料金である港湾運送料金表を基に交渉により決定しております。

(2) 港湾荷役作業については、届出料金である港湾運送料金表を基に交渉により決定しております。

(イ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所 有(被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
同一の親会社を持つ会社	ジャパンエクスプレス梱包運輸株式会社	横浜市鶴見区	60,000	運送事業	(所有) 直接 間接 12.95		事業の譲受	250,000		

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておりません。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

事業譲受の譲受対価は第三者機関に算定を依頼し、双方協議の上決定しております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

株式会社商船三井(東京証券取引所に上場)

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり純資産額	646.93 円	697.22 円
1株当たり当期純利益金額	52.63 円	54.71 円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益金額(千円)	2,276,210	2,366,177
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	2,276,210	2,366,177
普通株式の期中平均株式数(株)	43,247,474	43,247,417

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	640,200	663,300	1.3	
1年以内に返済予定の長期借入金	25,920	27,680	2.4	
1年以内に返済予定のリース債務	165,477	153,058		
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	71,280	48,440	2.4	平成31年～32年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	268,469	194,355		平成31年～37年
その他有利子負債				
合計	1,171,346	1,086,834		

- (注) 1. 平均利率算定に当たっての利率及び残高は、連結決算日現在のものを使用しております。
2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。
3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	27,680	20,760		
リース債務	99,470	63,885	23,472	6,983

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
営業収入(千円)	14,000,301	27,733,840	41,566,101	55,870,741
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(千円)	778,672	1,474,407	2,445,383	3,666,570
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益金額 (千円)	410,553	900,363	1,489,768	2,366,177
1株当たり四半期(当期) 純利益金額(円)	9.49	20.82	34.45	54.71

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	9.49	11.32	13.62	20.27

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年 3月31日)	当事業年度 (平成30年 3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,399,774	1,228,173
受取手形	227,855	239,500
営業未収入金	6,344,409	6,156,632
貯蔵品	53,995	57,204
前払費用	174,283	192,283
繰延税金資産	235,007	257,555
短期貸付金	8,035,544	9,881,276
未収入金	409,602	400,541
その他	176,974	107,989
貸倒引当金	1,501	115,086
流動資産合計	17,055,944	18,406,071
固定資産		
有形固定資産		
建物	2 3,388,752	2 3,178,416
構築物	210,649	195,624
機械及び装置	2 914,422	2 1,193,238
船舶	0	0
車両運搬具	418,364	432,857
工具、器具及び備品	270,609	227,374
土地	2,474,440	2,474,440
リース資産	105,785	99,303
建設仮勘定	2 223,718	296,810
有形固定資産合計	8,006,743	8,098,066
無形固定資産		
借地権	1,699,457	1,699,457
のれん	359,701	279,767
ソフトウェア	181,038	287,775
電話加入権	30,806	30,806
その他	188,954	72,652
無形固定資産合計	2,459,958	2,370,459
投資その他の資産		
投資有価証券	1,922,159	2,108,457
関係会社株式	321,488	360,113
出資金	1,665	1,665
関係会社出資金	359,212	83,046
長期貸付金		666,000
従業員に対する長期貸付金	4,205	2,985
繰延税金資産	254,107	197,531
長期前払費用	32,969	28,238
差入保証金	241,825	230,901
その他	260,259	566,754
貸倒引当金	14,015	325,664
投資その他の資産合計	3,383,875	3,920,028
固定資産合計	13,850,576	14,388,554
資産合計	30,906,521	32,794,626

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
営業未払金	2,795,591	2,730,483
短期借入金	4,176,333	4,385,121
リース債務	39,157	40,863
未払金	172,443	266,887
未払費用	346,759	356,011
未払法人税等	247,759	539,912
前受金	139,192	182,172
預り金	144,864	101,654
賞与引当金	498,443	472,361
役員賞与引当金	72,200	73,900
流動負債合計	8,632,745	9,149,368
固定負債		
リース債務	74,175	65,532
退職給付引当金	1,219,339	1,200,246
役員退職慰労引当金	155,327	160,357
長期預り金	232,600	220,088
資産除去債務	16,371	41,392
固定負債合計	1,697,813	1,687,617
負債合計	10,330,559	10,836,986
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,155,300	2,155,300
資本剰余金		
資本準備金	330,659	330,659
資本剰余金合計	330,659	330,659
利益剰余金		
利益準備金	208,165	208,165
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	1,070,158	1,026,820
別途積立金	294,871	294,871
繰越利益剰余金	15,771,011	17,066,650
利益剰余金合計	17,344,206	18,596,507
自己株式	30,452	30,491
株主資本合計	19,799,713	21,051,975
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	776,248	905,664
評価・換算差額等合計	776,248	905,664
純資産合計	20,575,961	21,957,640
負債純資産合計	30,906,521	32,794,626

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
営業収入		
港湾事業収入	20,887,389	21,036,990
プラント・物流事業収入	15,721,819	17,802,513
その他の事業収入	542,725	529,401
営業収入合計	37,151,934	39,368,906
営業費用		
港湾事業作業費	17,357,133	17,255,957
プラント・物流事業作業費	11,993,975	13,497,805
その他の事業費用	436,208	449,736
営業費用合計	29,787,317	31,203,500
営業総利益	7,364,616	8,165,405
販売費及び一般管理費	2 5,413,477	2 6,263,596
営業利益	1,951,138	1,901,809
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	81,654	386,118
その他	20,708	76,379
営業外収益合計	102,362	462,497
営業外費用		
支払利息	3,117	2,764
その他	3,398	5,677
営業外費用合計	6,515	8,441
経常利益	2,046,985	2,355,865
特別利益		
固定資産売却益	188,615	10,177
投資有価証券売却益	6,684	
関係会社出資金売却益		92,609
受取賠償金		80,111
特別利益合計	195,299	182,897
特別損失		
固定資産除売却損	9,406	19,018
ゴルフ会員権売却損		7,930
ゴルフ会員権評価損	3,500	5,141
特別損失合計	12,906	32,090
税引前当期純利益	2,229,379	2,506,672
法人税、住民税及び事業税	636,000	888,000
法人税等調整額	97,470	22,855
法人税等合計	733,470	865,144
当期純利益	1,495,908	1,641,527

【営業費用明細表】

(イ) 営業費用合計

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
労務費		277,990	0.9	286,258	0.9
下払作業費		20,667,671	69.4	19,786,654	63.4
賃借料		3,258,841	10.9	5,835,679	18.7
港湾付帯費		716,079	2.4	708,048	2.3
減価償却費		1,013,986	3.4	985,800	3.2
諸経費		3,852,749	13.0	3,601,059	11.5
計		29,787,317	100.0	31,203,500	100.0

(ロ) 港湾事業作業費明細

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
下払作業費		13,547,278	78.1	11,348,405	65.8
賃借料		1,359,334	7.8	3,728,543	21.6
港湾付帯費		716,079	4.1	708,048	4.1
減価償却費		331,573	1.9	316,240	1.8
諸経費		1,402,868	8.1	1,154,720	6.7
計		17,357,133	100.0	17,255,957	100.0

(ハ) プラント・物流事業作業費明細

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
労務費		277,990	2.3	286,258	2.1
下払作業費		7,102,872	59.2	8,420,729	62.4
賃借料		1,794,391	15.0	2,007,134	14.9
減価償却費		578,255	4.8	566,703	4.2
諸経費		2,240,465	18.7	2,216,980	16.4
計		11,993,975	100.0	13,497,805	100.0

(ニ) その他の事業費用明細

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
下払作業費		17,520	4.0	17,520	3.9
賃借料		105,116	24.1	100,002	22.2
減価償却費		104,157	23.9	102,855	22.9
諸経費		209,415	48.0	229,358	51.0
計		436,208	100.0	449,736	100.0

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			利益剰余金 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金			
					固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	2,155,300	330,659	330,659	208,165	1,113,513	294,871	14,620,975	16,237,525
当期変動額								
剰余金の配当							389,227	389,227
固定資産圧縮積立金の 取崩					43,354		43,354	
当期純利益							1,495,908	1,495,908
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）								
当期変動額合計					43,354		1,150,035	1,106,681
当期末残高	2,155,300	330,659	330,659	208,165	1,070,158	294,871	15,771,011	17,344,206

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	30,444	18,693,040	628,451	628,451	19,321,491
当期変動額					
剰余金の配当		389,227			389,227
固定資産圧縮積立金の 取崩					
当期純利益		1,495,908			1,495,908
自己株式の取得	8	8			8
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			147,797	147,797	147,797
当期変動額合計	8	1,106,672	147,797	147,797	1,254,469
当期末残高	30,452	19,799,713	776,248	776,248	20,575,961

当事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金 合計
					固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	2,155,300	330,659	330,659	208,165	1,070,158	294,871	15,771,011	17,344,206
当期変動額								
剰余金の配当							389,227	389,227
固定資産圧縮積立金の 取崩					43,338		43,338	
当期純利益							1,641,527	1,641,527
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)								
当期変動額合計					43,338		1,295,639	1,252,300
当期末残高	2,155,300	330,659	330,659	208,165	1,026,820	294,871	17,066,650	18,596,507

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	30,452	19,799,713	776,248	776,248	20,575,961
当期変動額					
剰余金の配当		389,227			389,227
固定資産圧縮積立金の 取崩					
当期純利益		1,641,527			1,641,527
自己株式の取得	38	38			38
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			129,416	129,416	129,416
当期変動額合計	38	1,252,262	129,416	129,416	1,381,678
当期末残高	30,491	21,051,975	905,664	905,664	21,957,640

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法

(3) 貯蔵品の評価基準及び評価方法

先入先出法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。ただし、倉庫用及び賃貸用資産の一部、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)、並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 2～50年

構築物 10～40年

機械及び装置 4～17年

船舶及び車両運搬具 4～11年

工具器具及び備品 2～20年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(4) 長期前払費用

均等償却を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員の賞与の支出に備えて、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

簡便法の採用

一部の退職給付制度は、退職給付債務及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) ヘッジ会計の方法

振当処理の要件を満たす為替予約について振当処理を、金利スワップについて特例処理の条件を充たしている場合には特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段は為替予約及び金利スワップ、ヘッジ対象は主として外貨建債権・債務及び借入金利息であります。

ヘッジ方針

主として為替変動リスク及び金利変動リスクを回避するため、外貨建債権・債務及び借入金残高の範囲内でヘッジ取引を行っております。なお、投機目的のためのデリバティブ取引は行わない方針であります。

ヘッジ有効性評価の方法

原則として、為替予約取引締結時より、外貨建債権・債務の決済時までの期間における外貨建債権・債務と為替予約の対応関係を基礎として判断しております。また、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

(2) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(3) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(4) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、その効果が発現する期間を個別に見積もり、当該期間にわたって均等償却しております。

(5) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
短期金銭債権	8,400,362 千円	10,992,269 千円
短期金銭債務	5,052,037	5,335,856
長期金銭債務	19,180	19,180

2 当期において、国庫補助金等の受入れにより、建物について7,987千円、機械及び装置について140,333千円の圧縮記帳を行っております。

なお、有形固定資産に係る国庫補助金等の受入れによる圧縮記帳累計額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
建物	476 千円	8,464 千円
機械及び装置	399,371	624,704
建設仮勘定	85,000	

3 保証債務

次の会社の金融機関借入金について保証をしております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
(株)ワールド流通センター	73,000 千円	千円
UTO (THAILAND) CO., LTD.	247,760 (76,000 千パーツ)	
計	320,760	計

なお、(株)ワールド流通センターに対する保証債務金額は、当社負担金額を記載しており、他社負担額を含めた連帯保証債務総額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
	921,300 千円	千円

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
営業取引による取引高		
営業収入	10,593,918 千円	10,787,227 千円
営業費用	12,733,769	13,531,818
営業取引以外の取引による取引高	102,776	399,367

2 販売費及び一般管理費は、ほぼ一般管理費に属する費用であります。

主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
職員給与	1,964,755 千円	2,135,828 千円
賞与引当金繰入額	492,109	467,345
役員賞与引当金繰入額	72,200	73,900
役員退職慰労引当金繰入額	40,760	54,530
事務委託費	786,993	931,775
貸倒引当金繰入額	9,539	425,233
減価償却費	66,207	94,707

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式355,012千円、関連会社株式5,101千円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式316,387千円、関連会社株式5,101千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産(流動)		
賞与引当金	153,670 千円	144,542 千円
未払事業税	15,279	58,055
拋出金等	11,825	11,106
その他	54,232	43,850
計	235,007	257,555
繰延税金負債(流動)		
繰延税金資産(流動)の純額	235,007	257,555
繰延税金資産(固定)		
退職給付引当金	373,324	367,275
役員退職慰労引当金	47,612	49,069
貸倒引当金	4,610	134,869
投資有価証券評価損	42,706	42,706
関係会社株式評価損	31,364	31,364
減損損失	387,739	365,129
資産調整勘定	75,153	56,259
その他	274,528	288,206
小計	1,237,040	1,334,881
評価性引当額	213,857	317,465
計	1,023,183	1,017,416
繰延税金負債(固定)		
固定資産圧縮積立金	472,064	452,747
その他有価証券評価差額金	295,890	352,772
その他	1,121	14,364
計	769,075	819,884
繰延税金資産(固定)の純額	254,107	197,531

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.83 %	30.83 %
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.85	0.66
のれん償却額	0.55	0.98
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.20	3.88
住民税均等割	0.81	0.75
評価性引当額の増減	0.17	4.16
法人税額の特別控除	0.83	
その他	0.72	1.01
税効果会計適用後の法人税等の負担率	32.90	34.51

(企業結合等関係)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区 分	資産の種類	当期首 残高	当 期 増加額	当 期 減少額	当 期 償却額	当期末 残高	減価償却 累計額
有形固定資産	建物	3,388,752	178,369	17,305	371,399	3,178,416	14,797,245
	構築物	210,649		83	14,942	195,624	426,763
	機械及び装置	914,422	682,777	140,333	263,628	1,193,238	5,932,746
	船舶	0				0	14,465
	車両運搬具	418,364	209,287	0	194,794	432,857	1,487,150
	工具、器具及び備品	270,609	54,522	5,577	92,180	227,374	985,308
	土地	2,474,440				2,474,440	
	リース資産	105,785	35,211	1,176	40,517	99,303	92,576
	建設仮勘定	223,718	280,478	207,386		296,810	
	計	8,006,743	1,440,646	371,861	977,462	8,098,066	23,736,257
無形固定資産	借地権	1,699,457				1,699,457	
	のれん	359,701			79,933	279,767	
	ソフトウェア	181,038	210,385	604	103,045	287,775	
	電話加入権	30,806				30,806	
	その他	188,954	52,230	168,531		72,652	
		計	2,459,958	262,615	169,135	182,978	2,370,459

(注) 1. 当期増加額のうち、主なものは次のとおりであります。

建物	物流倉庫LED化工事	54,137千円
	本社改修工事	32,317千円
機械及び装置	ハイブリッド式ストラドルキャリア	245,000千円
	タイヤ式トランスファークレーン	346,000千円
車両運搬具	スーパーキャリア	181,962千円
ソフトウェア	新会計システム	105,337千円
	NACC S更改対応システム改修	61,827千円

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	15,517	430,960	5,727	440,751
賞与引当金	498,443	472,361	498,443	472,361
役員賞与引当金	72,200	73,900	72,200	73,900
役員退職慰労引当金	155,327	54,530	49,500	160,357

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1-4-1 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1-4-1 三井住友信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	当社の株式取扱規程に定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL https://www.utoc.co.jp/
株主に対する特典	なし

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに単元未満株式の売渡請求をする権利以外の権利を有しておりません。

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第150期）（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）平成29年6月28日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成29年6月28日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第151期第1四半期）（自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日）平成29年8月14日関東財務局長に提出

（第151期第2四半期）（自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日）平成29年11月14日関東財務局長に提出

（第151期第3四半期）（自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日）平成30年2月14日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成29年7月3日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年6月27日

株式会社宇徳
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 川上尚志 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 戸谷且典 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社宇徳の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社宇徳及び連結子会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社宇徳の平成30年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社宇徳が平成30年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年6月27日

株式会社宇徳
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 川上尚志 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 戸谷且典 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社宇徳の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第151期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社宇徳の平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。